

- ① 医師業務に対するPBPM等を活用したタスク・シフト/シェア
- ② 薬剤師業務のタスク・シフト/シェア実践事例
- ③ 多職種&地域でのタスク・シフト/シェア実践事例



# タスク・シフト/シェアは医師・薬剤師のみ？



医療/介護を含めた多職種＆地域とのタスク・シフト/シェア

# 多職種&地域とタスク・シフト/シェアで取り組んだ業務



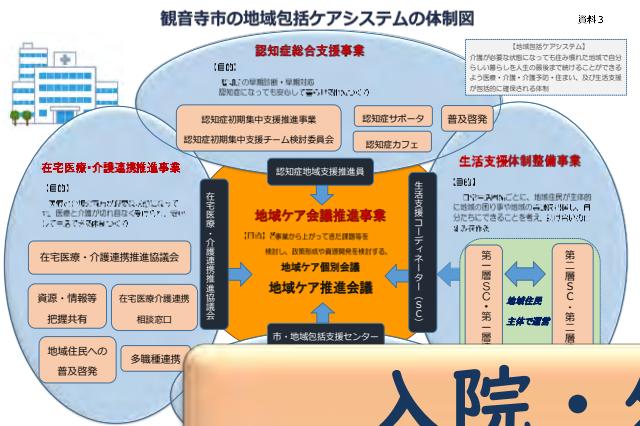
## ポリファーマシー対策



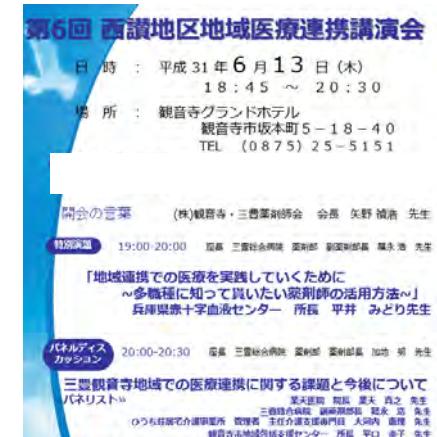
## 情報共有対策



## 地域での介護予防対策



## 在宅介入&老健対策



入院・外来・地域の薬学的連携の質と量を高める

## ポリファーマシーとは?

ポリファーマシーは単に服用する薬剤数が多いことではなく、**不適切処方**（過量・過小）による**薬物有害事象**のリスク増加等の問題につながる状態を指す。



ポリファーマシーはQOL低下に繋がる



ポリファーマシーは**転倒、身体/認知機能**と有意に関連する

Health Outcomes Associated with Polypharmacy in Community-Dwelling Older Adults: A Systematic Review. J Am Geriatr Soc. 2014

服薬数の増加と**フレイル**の間に有意な関連がある

The relationship between frailty and polypharmacy in older people: A systematic review Br J Clin Pharmacol. 2018

ポリファーマシーにより**入院リスク**は増大する

Adverse Outcomes of Polypharmacy in Older People: Systematic Review of Reviews J Am Med Dir Assoc. 2020

# ポリファーマシー対策に対する診療報酬（令和6年度）（病院）

## ③ 入院中の薬物療法の適正化に対する取組の推進

### 第1 基本的な考え方

病棟における多職種連携によるポリファーマシー対策をさらに推進する観点から、業務の合理化がなされるよう、薬剤総合評価調整加算について、要件を見直す。

### 第2 具体的な内容

1. 薬剤総合評価調整加算について、カンファレンスの実施に限らず、多職種による薬物療法の総合的評価及び情報共有・連携ができる機会を活用して必要な薬剤調整等が実施できるよう要件を見直す。
2. 必要な薬剤調整等の実効性を担保するため、医療機関内のポリファーマシー対策に係る評価方法についてあらかじめ手順書を作成等することとする。

「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）」（厚生労働省）、  
「高齢者の医薬品適正使用の指針（各論編（療養環境別））」（厚生労働省）、日本老年医学会の関連ガイドライン（高齢者の安全な薬物療法ガイドライン）、「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」（厚生労働省）、「ポリファーマシー対策の進め方」（日本病院薬剤師会）等を参考にすること。

「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）」（厚生労働省）、  
「高齢者の医薬品適正使用の指針（各論編（療養環境別））」（厚生労働省）、日本老年医学会の関連ガイドライン（高齢者の安全な薬物療法ガイドライン）等を参考にすること。

ウ 処方の内容を変更する際の留意事項を多職種で共有した上で、患者に対して処方変更に伴う注意点を説明する。また、併せて当該患者に対し、ポリファーマシーに関する一般的な注意の啓発を行う。なお、ここでいうポリファーマシーとは、「単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアラנס低下等の問題につながる状態」をいう。

エ 処方変更による病状の悪化や新たな副作用の有無について、多職種で確認し、必要に応じて、再評価を行う。

オ イ、ウ、エを実施するに当たっては、ポリファーマシー対策に係るカンファレンスを実施する他、病棟等における日常的な薬物療法の総合的評価及び情報共有ができる機会を活用して、多職種が連携して実施すること。

カ (7)に規定するガイドライン等を参考にして、ポリファーマシー対策に関する手順書を作成し、保険医療機関内に周知し活用すること。

ウ 当該カンファレンスにおいて、処方の内容を変更する際の留意事項を多職種で共有した上で、患者に対して処方変更に伴う注意点を説明する。また、併せて当該患者に対し、ポリファーマシーに関する一般的な注意の啓発を行う。なお、ここでいうポリファーマシーとは、「単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアラנס低下等の問題につながる状態」をいう。

エ 処方変更による病状の悪化や新たな副作用の有無について、多職種で確認し、必要に応じて、再度カンファレンスにおいて総合的に評価を行う。

(新設)

(新設)

カンファレンス⇒多職種連携（情報共有等）

# 日病薬 ポリファーマシー対策の進め方 (ver 2.0)



## 目次

### 目次

- はじめに .....
- 1.ポリファーマシー対策の目的 .....
- 2.具体的な業務 .....
- ①入院患者に対する薬剤師の対応 .....
    - 1) 入院前 .....
    - 2) 入院時 .....
    - 3) 入院中 .....
    - 4) 退院時 .....
    - 5) 退院後 .....  - ②医師・看護師等の多職種との連携・情報共有の方法 .....
  - ③薬剤管理サマリーの活用 .....
  - ④医療機関との連携 .....
  - ⑤地域での取り組み .....
  - ⑥職員に対する教育・啓発 .....
  - ⑦患者や家族等に対する教育・啓発 .....
- 3.医療機能別での留意点 .....
- 4.参考資料 .....
- おわりに .....
- 別添 1 業務手順書例 .....
- 別添 2 薬剤管理サマリーおよび返書の記載事例 .....

1

## ポリファーマシー対策における病院薬剤師のかかわり

入院前

- 服用中の薬剤の確認

お薬手帳や薬剤管理サマリー等から服用中の薬剤の確認、薬物療法に係る情報の収集

入院時

- 総合的な評価、リスク評価に応じた処方提案

面談・問診票・薬物療法に係る情報を通じて服薬状況や副作用などの確認、PIMs等のリスク評価、身体機能等の評価、服薬計画の提案

入院中

- 処方見直しの検討

対象患者のスクリーニング、処方内容の総合的な評価、薬物療法の適正化の検討、  
処方見直しの優先順位の検討（離脱症状や再燃などに留意）、非薬物療法の検討、  
患者・家族等と情報共有

- 処方見直し後の対応

服薬指導を通じて処方見直し後の状況や経過の確認、患者や家族等への説明

退院時

- 退院時指導、保険薬局や転院先医療機関等への情報提供

処方変更や中止理由を患者や家族等へ説明、お薬手帳や薬剤管理サマリー等の記載、  
転院先等への継続的な対応の依頼、治療上必要な投与期間などの情報共有

退院後

- 薬剤管理サマリーの返書への対応

日常業務

- 医療機関連携、地域での取り組み、職員や患者・家族等への教育・啓発



病院薬剤師が行うポリファーマシー対策を具体的に提示

# 2020年度よりポリファーマシーチーム発足！

入院患者に対し適正なポリファーマシー対策を実施  
多職種チームカンファ（週1）&病棟カンファ（医/薬/看で随時）

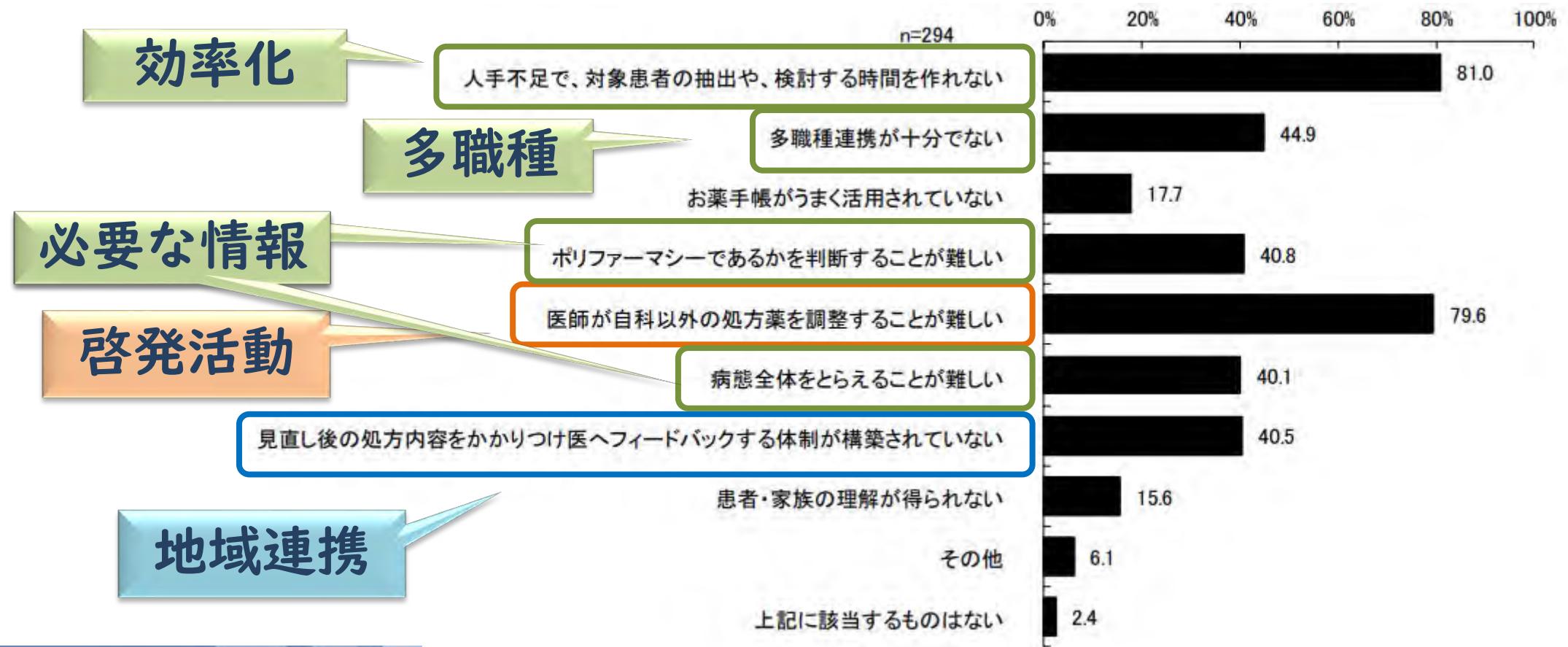
ポリファーマシーチームの薬剤師



ポリファーマシーチームカンファレンス風景



# ポリファーマシー対策を始める＆進める際の問題点



「病院における～始め方と進め方」等の  
指針・手順書を参考に業務改善

# 「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」

▶ [PDF 「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」について](#) (令和3年3月31日付け医政安発0331第1号・薬生安発0331第1号) [PDF形式: 4.2MB]

▶ [PDF 「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」](#) [PDF形式: 1.9MB]

▶ [PDF 「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」様式事例集](#) [PDF形式: 2.1MB]

様式03 ▶ [W 持参薬評価テンプレート \(東京大学医学部附属病院\)](#) [Word形式: 24KB]

様式04 ▶ [W 持参薬評価表 \(国立長寿医療研究センター\)](#) [Word形式: 33KB]

様式05 ▶ [X 訪問薬剤管理指導報告書 \(三豊総合病院\)](#) [Excel形式: 21KB]

様式06 ▶ [X 服薬情報提供書 \(東北大学病院\)](#) [Excel形式: 23KB]

様式07 ▶ [W 施設間情報提供書 \(九州病院\)](#) [Word形式: 28KB]

様式08 ▶ [X 薬剤管理サマリー \(日本病院薬剤師会\)](#) [Excel形式: 69KB]

様式09 ▶ [X 薬剤管理サマリー \(三豊総合病院\)](#) [Excel形式: 46KB]

様式10 ▶ [W お薬手帳を用いた情報提供の例 \(九州病院\)](#) [Word形式: 27KB]

様式11 ▶ [X 介入状況報告書 \(三豊総合病院\)](#) [Excel形式: 34KB]

医政安発 0331 第 1 号  
薬生安発 0331 第 1 号  
令 和 3 年 3 月 31 日

各 都道府県 保健所設置市 特 別 区 衛生主管部 (局) 長 殿

厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長  
(公印省略)

厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長  
(公印省略)

「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」について

医療行政の推進につきましては、平素から格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。高齢化の進展に伴い、加齢による生理的な変化や複数の併存疾患を治療するための医薬品の多剤服用等によって、安全性の問題が生じやすい状況にあることから、平成29年4月に「高齢者医薬品適正使用検討会」を設置し、高齢者の薬物療法の安全確保に必要な事項の調査・検討を進めており、これまでに「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）及び「高齢者の医薬品適正使用の指針（各論編（栄養環境別））」を取りまとめたところです。今般、検討会での議論を経て「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」を取りまとめましたので、貴管下医療機関等において、医薬品に係る医療安全推進のため、ご活用いただきますよう、周知お願いいたします。

なお、「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」で使用している用語については、下記のとおり、併せて留意をお願いします。

記

- 「薬物有害事象」は、薬剤の使用後に発現する有害な症状又は徵候であって薬剤との因果関係の有無を問わない概念です。
- 「ポリファーマシー」は、単に服用する薬剤数が多いのみならず、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服用過誤、服薬アドヒアラנס低下等の問題につながる状態をいいます。

令和3年3月31日付け医政安発0331第1号・薬生安発0331第1号  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_17788.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17788.html)

それぞれの施設の状況に応じたポリファーマシー対策が可能  
令和6年度には地域における始め方と進め方を発出



Mitoyo General Hospital

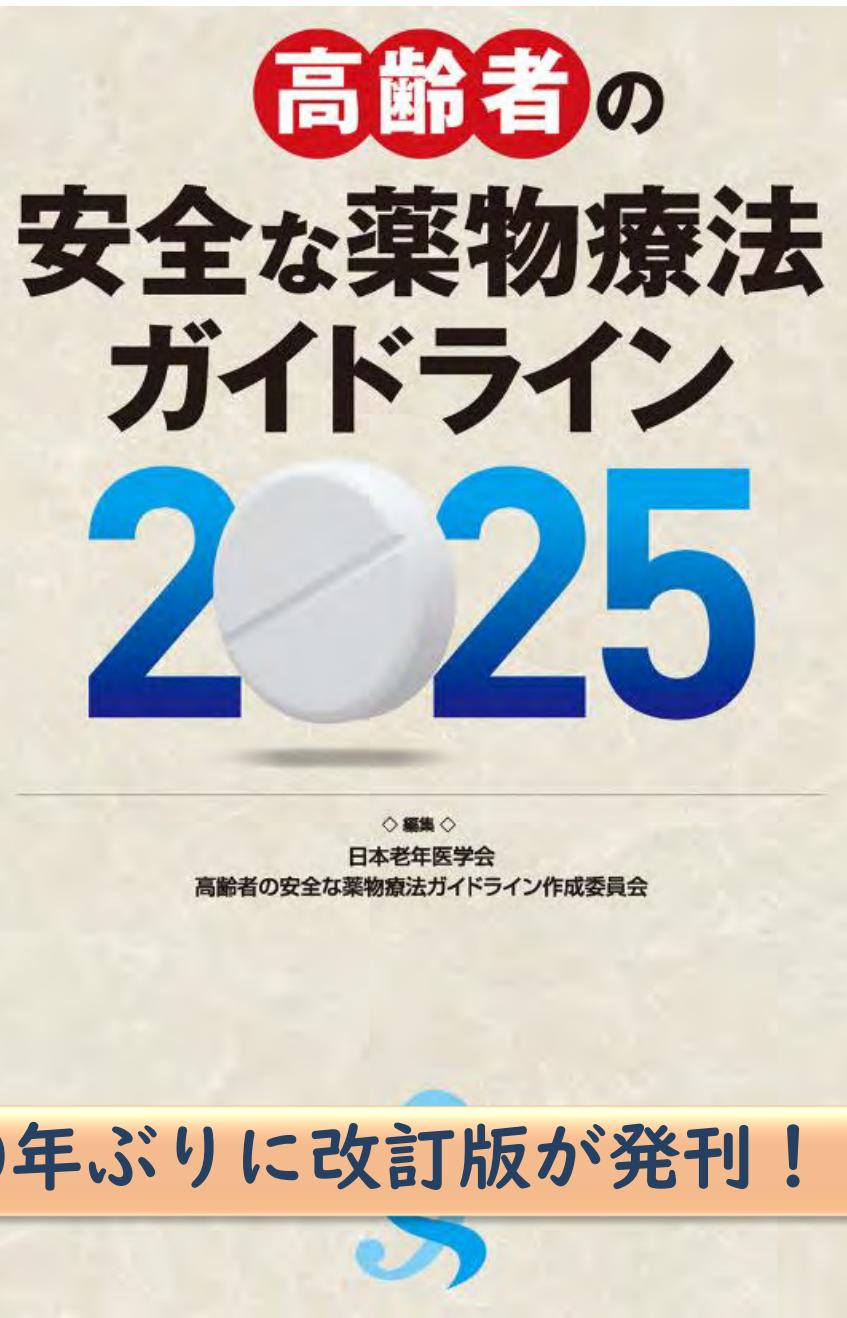
# ポリファーマシー対策を**多職種&地域**で 実践するためのポイント

- ・スクリーニングツール作成（効率的な情報収集＆多職種連携）
- ・ポリファーマシー対策への理解（啓発活動）
- ・シームレスな情報共有（地域連携）



特に効果的であったと考える項目





ト:STOPP-J

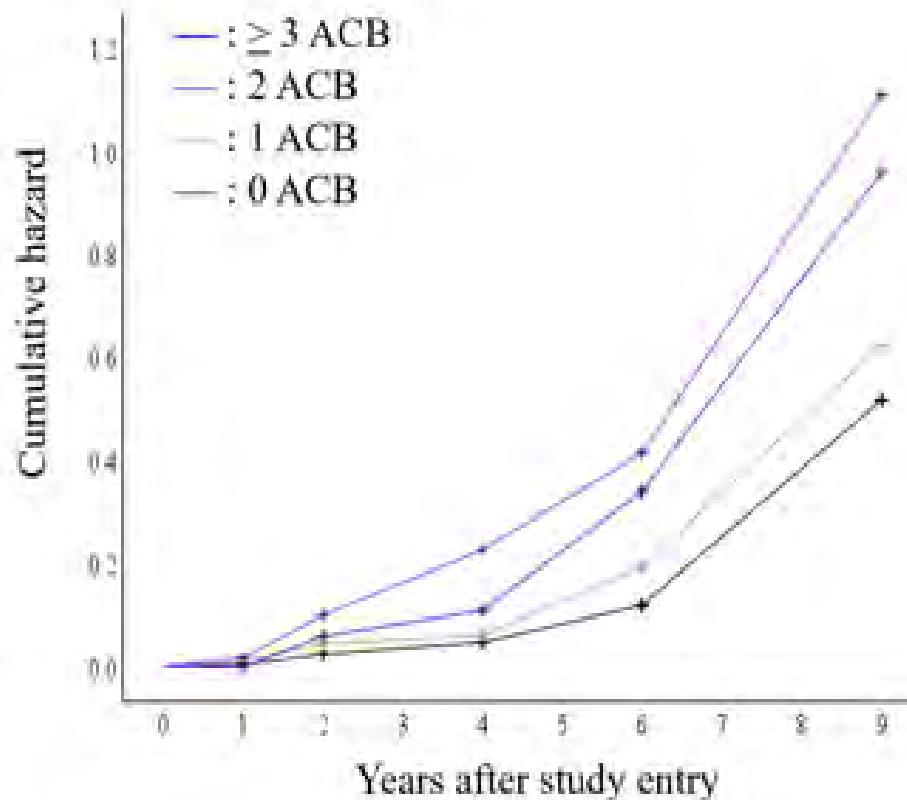
ers Criteria等を参考に「高齢者の  
」を発表、2015年に改訂

リスト;STOPP-Jに加え、「開始  
加

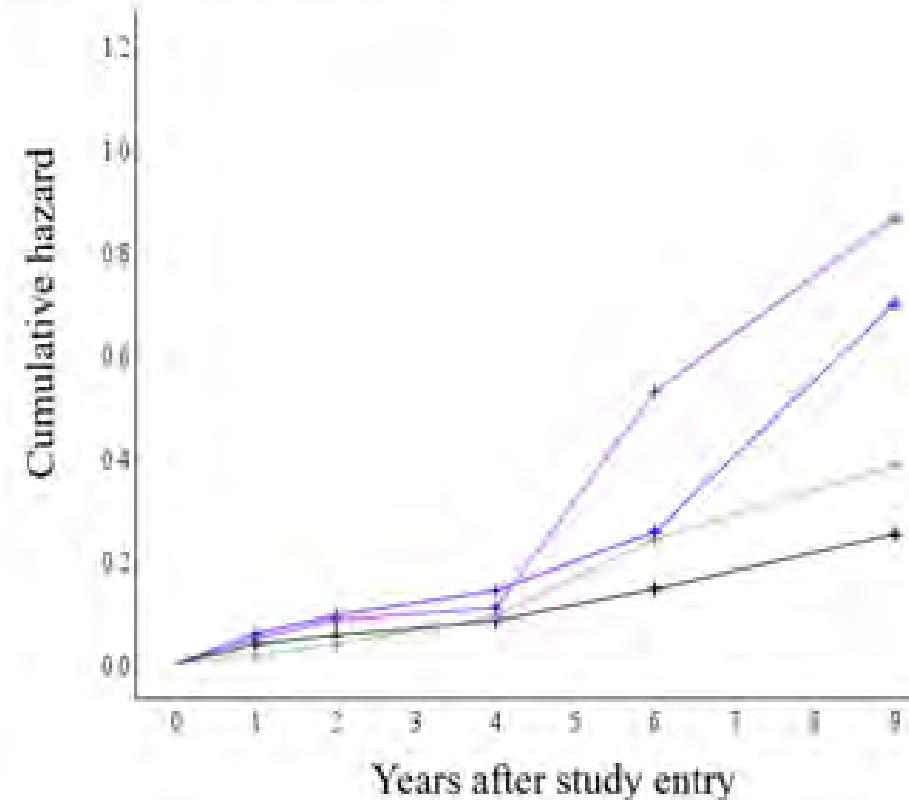
般名(す 場合は 無記載)	対象となる患者群 (すべて対象となる 場合は無記載)	推奨される使用法	該当する一般名(2017年2月)	薬価基準収 載医薬品 コード
			オキシペルビン	N05AE01
			クロカブミン塩酸塩	N05AX
			クロルプロマジンフェノールフタリジン塩	N05AA01
			クロルプロマジン塩酸塩	N05AA01
			スピベロン	N05AD
			スルトブリド塩酸塩	N05AL02
			ゾチビン	N05AX11
			チアブリド塩酸塩	N05AL03
			チミベロン	N05AD
			ネモナブリド	N05AL
			ハロペドール	N05AD01
			ビババロソ(フロロビド塩酸塩)	N05AC06
			ビモジド	N05AG02
	精神疾患(ハ ム、クロル レボルバ ビ)	認知症患者全般	定型抗精神病薬の使用はできるだけ控える。非定型抗精神病薬は必要最小限の使用にとどめる。 チロフェノン系(ハロペドールなど)はバーキンソン病に禁忌。 オランザピン、クエチアピンは糖尿病に禁忌。	
			フルフェナジンマレイン酸塩	N05AB02
			プロクロルベジンマレイン酸塩	N05AB04
			プロペジノアジン	N05AD01
			プロムベドール	N05AD06
			ペルフェナジン	N05AB03
			ペルフェナジンエンジン酸塩	N05AB03
			ペルフェナジンマレイン酸塩	N05AB03
			モサブラミン塩酸塩	N05AX10
			レボルプロマジンマレイン酸塩	N05AA02
			アセナビンマレイン酸塩	N05AH05
			アリゴブラドール	N05AX12

# 日本版抗コリン薬リスクスケール

(a) Frailty development



(b) Sarcopenia development



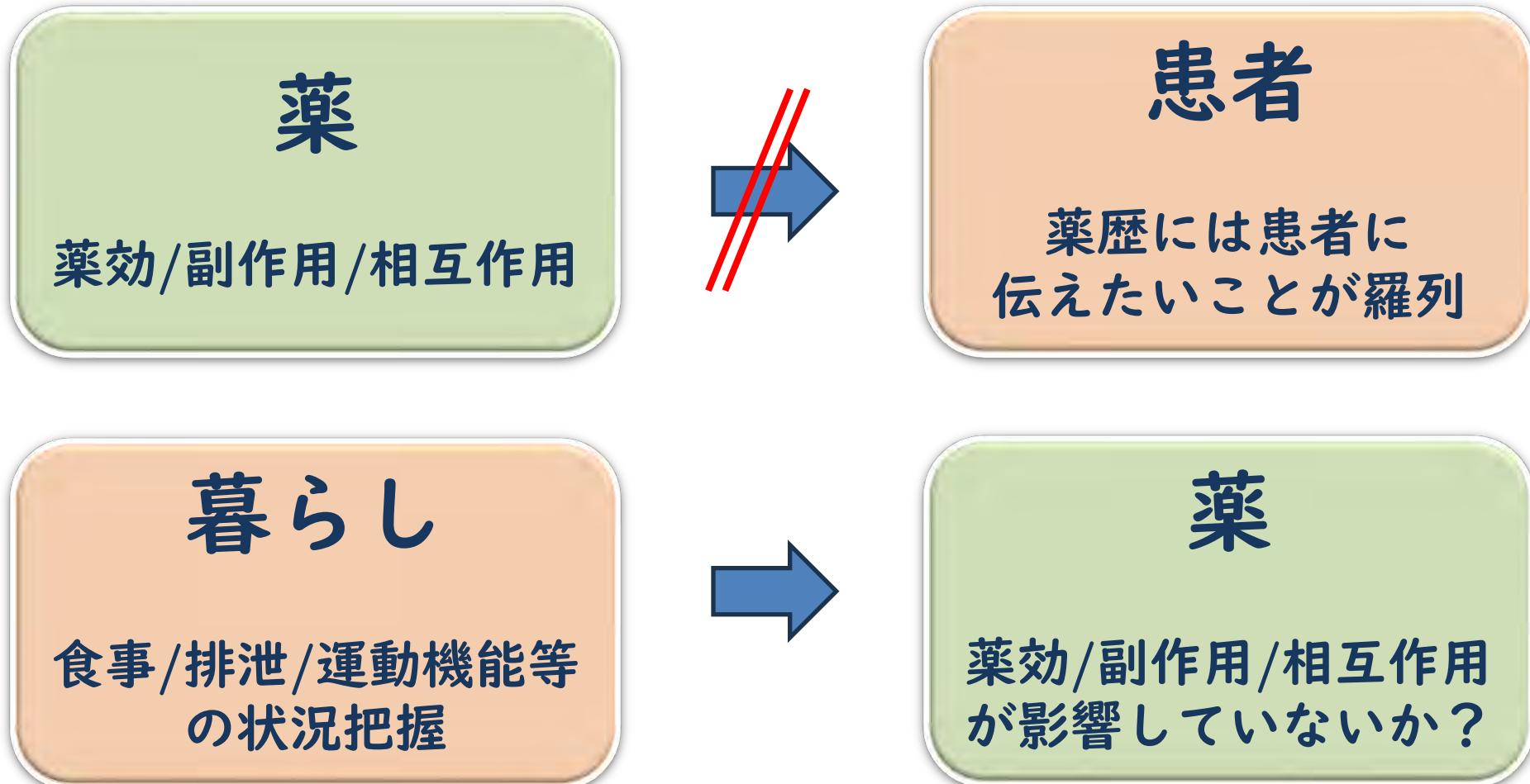
日本版抗コリン薬リスクスケールによる抗コリン薬負荷量は  
地域在住高齢者のフレイルやサルコペニアのリスクと関連

薬剤（PIMsなど）に関する情報だけでは難しい・・・



ポリファーマシーだと判断するために必要な情報とは？

# 薬が先にくる思考から暮らしが先にくる思考回路へ



# 高齢者総合機能評価（CGA）に基づく診療・ガイドライン2024

## 高齢者総合機能評価 (CGA)に基づく 診療・ケアガイドライン 2024

- ・長寿医療研究開発費  
「高齢者総合機能評価(CGA)ガイドラインの作成研究」研究班
- ・日本老年医学会
- ・国立長寿医療研究センター

Comprehensive  
Geriatric  
Assessment

南山堂

III. 医療介護現場、関係職種によるCGAの利用

3.薬剤師

| CQ | III-3

高齢者において薬剤師がCGAを用いた処方見直し（medication review）を行うことは有用か？

ステートメント

高齢者において、薬剤師がCGAを用いた処方見直し（medication review）を行うことを提案する。

エビデンスの強さ C 推奨度 2 (合意率：100%)

高齢者総合機能評価（CGA）に基づく診療・ケアガイドライン2024 Copyright © 日本老年医学会

薬剤師によるCGAを活用したポリファーマシー対策が推奨されている

# 高齢者総合機能評価（CGA）とは

CGA-7

調査内容	質問	次のステップ
①意欲	外来患者の場合：診察時に被験者の挨拶を待つ それ以外：自ら定時に起床するか、もしくはリハビリ等への積極性で判断	Vitality Index
②認知機能 (復唱)	「これから言う言葉を繰り返してください（桜、猫、電車）」 「あとでまた聞きますから覚えておいてください」	HDS-R またはMMSE
③IADL (交通機関の利用)	外来患者の場合：「ここまでどうやって来ましたか？」 それ以外：「普段バスや電車、自家用車を使ってデパートやスーパーまで出かけますか？」	Lawton&Brody
④認知機能 (遅延再生)	「先程覚えていただいた言葉を言ってください」	HDS-RまたはMMSE
⑤ADL (入浴)	「お風呂は自分ひとりで入って、洗うのに手助けは要りませんか？」	Barthel Index
⑥ADL (排泄)	「失礼ですが、トイレで失敗してしまうことはありませんか？」	
⑦情緒	「自分が無力だと思いますか？」	GDS15

個々の高齢者の疾患/薬剤の評価だけでなく、ADL、認知機能、気分/意欲、QOL、社会的背景等の生活機能を総合的に評価



薬剤情報＆生活機能情報を共有することが適正な介入に繋がる

# 多職種協働による生活機能評価情報の収集

職種	役割
看護師	服薬管理能力の把握、服薬状況の確認、ADL変化の確認、薬物療法の効果/副作用の確認、多職種への情報提供とケアの調整
歯科衛生士	口腔内環境や嚥下機能の確認、内服可能な剤型の検討
PT/OT	服薬に関わる身体機能/認知機能/ADLの変化の確認
ST	嚥下機能評価、内服可能な剤型/服薬方法の提案 薬物有害事象としての嚥下機能低下等の評価
管理栄養士	食欲、嗜好、摂取量、食形態、栄養状態等の評価
社会福祉士	入院前の服薬や生活状況の確認と多職種への情報提供 退院先に向けた薬物治療等に関する情報提供
介護福祉士	服薬状況や生活状況の変化の確認
ケアマネ	各職種からの服薬/生活状況の情報集約と多職種への情報伝達

厚生労働省:高齢者の医薬品適正使用の指針(各論編)より引用、一部改変

こうした情報を共有する仕組みが必要

# 問診によるポリファーマシークリーニングツール

記入日： 年 月

**おくすり 問診票**

フリガナ お名前  
生年月日 年 月 日 ( 歳 ) 性別

わかる範囲でお答えください。

問診票の記入について教えて下さい ➡ 本人 家族 その他介護者( )

過去に副作用を経験したことがありますか？  
なし あり( )

アレルギー歴はありますか？  
なし あり( )

一般用医薬品・サプリメント・健康食品を使用していますか？  
なし あり(商品名)

おくすりはだれが管理していますか？  
自分 自分と家族等 家族等

おくすりを使用するときに介助が必要  
いいえ はい(一部介助が必要) すべて

下記の症状が直近1ヶ月以内  
 なお、本人に聞き取り・確認することができます  
本人に聞き取り・確認する

くすりの副作用について工夫してます  
 1 おくすりの管理方法について工夫してます  
1包化 おくすりBOXやカレンダー  
 2 おくすりについて困っていることはあります  
くすりの飲み忘れ くすりがけ くすりを取り出しづらい くすりの他の( )  
 3 おくすりを飲むときに工夫してます  
なし あり( )利口ゼリー  
 4 おくすりに関する調査などを希望されます  
いいえ はい  
 はいの場合  
 裏

1 日中の眠気が続くことがありますか？  
  
いいえ はい  
 1日の睡眠時間 \_\_\_\_\_ 時間

2 この2週間で、わけもなく疲れたような感じがしますか？  
  
いいえ はい

3 周りの人から「いつも同じことを聞く」などのもの忘れがあると言われますか？  
  
いいえ はい

4 食欲が低下したと感じますか？  
  
いいえ はい

5 ふらつきやめまいを感じることはありますか？  
  
いいえ はい  
 □ 目が回る感じ  
 □ フワフワ・ユラユラしているような感じ

6 過去6ヶ月で転倒したことがありますか？  
  
いいえ はい

7 排尿に関して困難を感じますか？  
  
いいえ はい  
 1日の排尿回数 合計 \_\_\_\_\_ 回  
 (日中 \_\_\_\_\_ 回 夜 \_\_\_\_\_ 回)

8 排便に関して困難に感じますか？  
  
いいえ はい  
 排便回数 \_\_\_\_\_ 日に \_\_\_\_\_ 回

9 口の渇きが気になりますか？  
  
いいえ はい

10 お茶や汁物等でむせることがありますか？  
  
いいえ はい

ご回答ありがとうございました

1 日中の眠気が続くことがありますか？  
  
いいえ はい  
 1日の睡眠時間 \_\_\_\_\_ 時間

2 この2週間で、わけもなく疲れたような感じがしますか？  
  
いいえ はい

3 周りの人から「いつも同じことを聞く」などのもの忘れがあると言われますか？  
  
いいえ はい

4 食欲が低下したと感じますか？  
  
いいえ はい

5 ふらつきやめまいを感じることはありますか？  
  
いいえ はい  
 □ 目が回る感じ  
 □ フワフワ・ユラユラしているような感じ

6 過去6ヶ月で転倒したことがありますか？  
  
いいえ はい

7 排尿に関して困難を感じますか？  
  
いいえ はい  
 1日の排尿回数 合計 \_\_\_\_\_ 回  
 (日中 \_\_\_\_\_ 回 夜 \_\_\_\_\_ 回)

8 排便に関して困難に感じますか？  
  
いいえ はい  
 排便回数 \_\_\_\_\_ 日に \_\_\_\_\_ 回

9 口の渇きが気になりますか？  
  
いいえ はい

10 お茶や汁物等でむせることがありますか？  
  
いいえ はい

薬局での待ち時間  
でスクリーニング

# CGAを活用したポリファーマシークリーニングツール

電子カルテから各種情報を抽出して作成

患者ID	病棟	寺役	鑑別時内服薬剤数	鑑別時PIMs数	減薬希望	PIMs	入院病名	介入の有無	転倒の有無	検査値逸脱(薬品)	検査項目	検査値	徐脈(薬剤)	徐脈(平均HR)	低血圧(薬剤)	低血圧(平均)	高血圧	エネルギー量	エネルギー必要量	CO	NU	BI	HDS-R	MMSE	嚥下機能	KT	せん妄
西棟4階病・外科	[REDACTED]	女	88歳	2021/6/29	52	2	[REDACTED]	6	1	[REDACTED]	1581	800	0	28	水	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]								
西棟4階病・外科	[REDACTED]	男	80歳	2021/8/14	6	9	0	6	1	[REDACTED]	0	28	水	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]									
西棟4階病・外科	[REDACTED]	女	77歳	2021/7/25	26	13	0	13	4	[REDACTED]	0	28	水	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]									
西棟4階病・外科	[REDACTED]	男	78歳	2021/7/30	21	11	2	7	2	[REDACTED]	0	28	水	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]									

## 【介入対象患者抽出基準】

常用内服薬剤数、同効薬重複、PIMs

+  $\alpha$

せん妄リスク、転倒リスク、日常生活動作、認知機能、嚥下機能、バイタルサイン、検査値、栄養状態、減薬希望、患者背景

多職種が日常業務で評価した患者の生活機能情報等を活用

西棟6階病・内科	[REDACTED]	男	83歳	2021/8/8	12	10	9	2	[REDACTED]	8	15	19	23	とろみ	Lv5											
西棟7階病・整形外科	[REDACTED]	女	88歳	2021/7/29	22	[REDACTED]	3	6	2	[REDACTED]	5	10	7	15	とろみ	[REDACTED]										
西棟7階病・整形外科	[REDACTED]	男	88歳	2021/8/6	14	[REDACTED]	1	9	3	[REDACTED]	40	とろみ	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]										
西棟7階病・整形外科	[REDACTED]	女	85歳	2021/7/30	24	[REDACTED]	0	2	8	[REDACTED]																
西棟7階病・整形外科	[REDACTED]	男	68歳	2021/7/4	[REDACTED]	12	2	5	あり	[REDACTED]																

スクリーニングシートは全て事務職員が作成 (VBAで自動作成)

↓  
今年度中にRPA  
(Robotic Process Automation) 導入予定

# 既存のカンファレンスでの情報共有

Ex:薬剤調整1週間後のふらつき軽減



Ex:2週間後に経口摂取が安定して体重が1kg増加

多職種で目標設定/介入/モニタリング

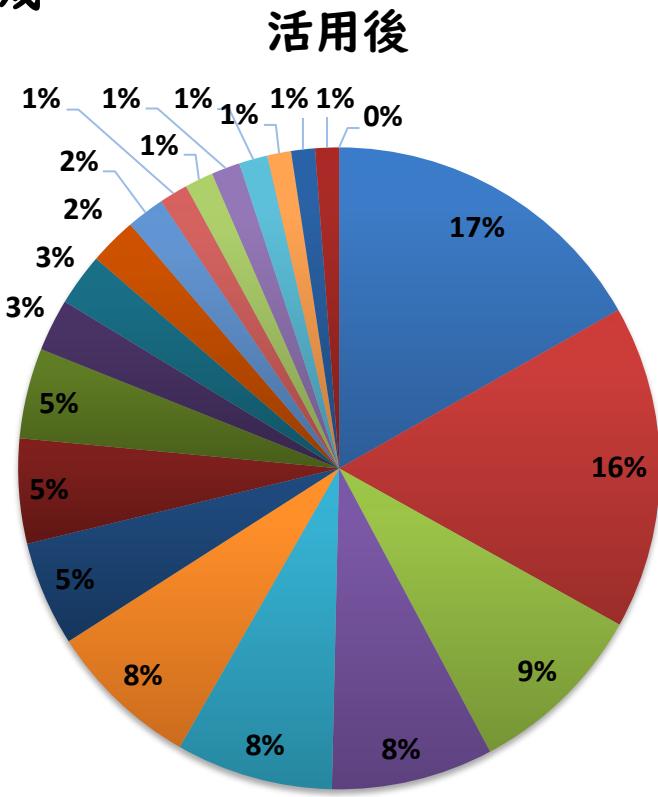
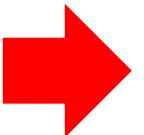
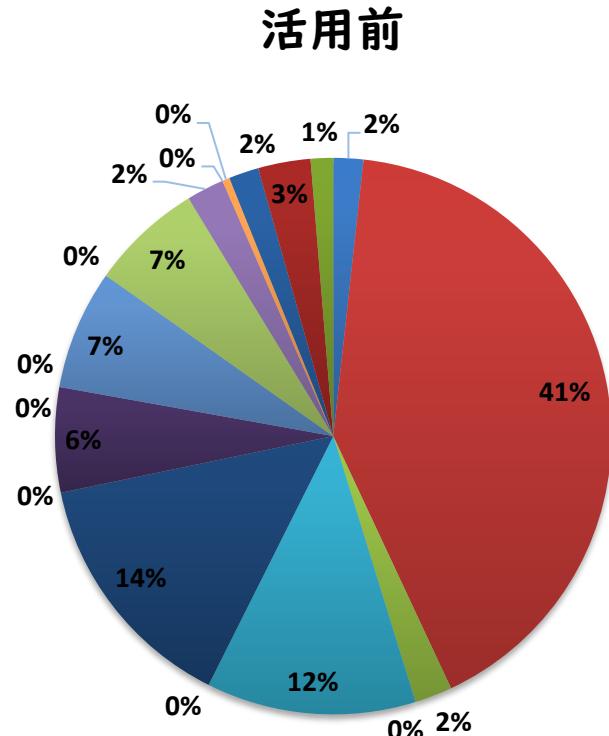


ADL↑&在宅復帰率↑



# 生活機能情報を活用したスクリーニングツールの効果

## 処方提案の契機



- 年齢・体重
- 症状改善
- ガイドライン（PIMs）参考
- 転倒リスクを考慮
- 副作用出現・懸念のため
- ADL低下
- 検査値異常
- 認知機能・せん妄リスクを考慮
- 病態を考慮
- アドヒアランス向上のため
- 嚥下機能低下
- 栄養状態（食事摂取量）を考慮
- 効果不良
- 患者希望
- 検査値改善
- バイタル参考
- 添付文書逸脱
- 処方意図不明
- 禁忌項目に該当のため
- 同効薬重複
- 相互作用のため

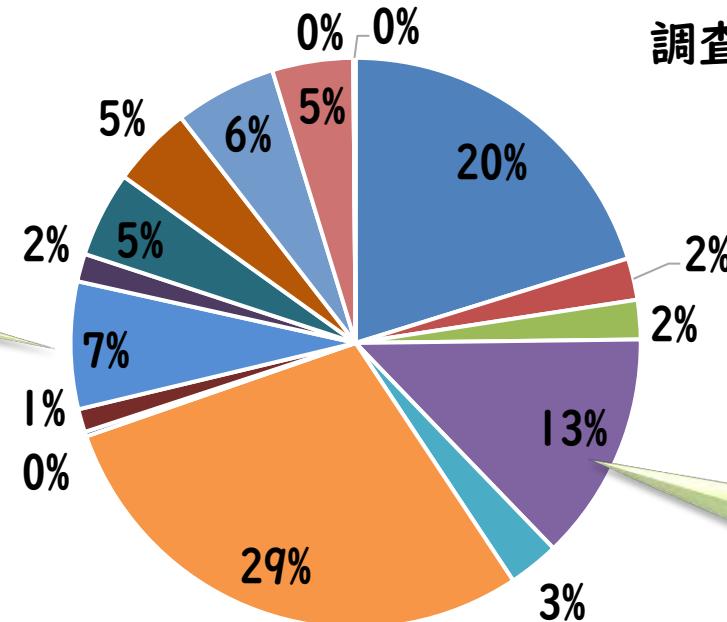
変更前の提案の契機は偏りが大きく、影響している事項の把握が難しかった。  
変更後は多角的な視点でのポリファーマシー対策が可能となった。

# 処方提案が受諾された薬剤（薬効群別）



変更あり (n=762)  
変更なし (n=281)  
⇒受諾率 73%

調査期間：2021年6月から2023年3月



- 中枢神経系用薬
- 感覚器官用薬
- 呼吸器官用薬
- ホルモン剤
- ビタミン剤
- 血液・体液用薬
- アレルギー用薬
- 抗生物質製剤
- 消化器官用薬
- 末梢神経系用薬
- 循環器官用薬
- 泌尿生殖器官及び肛門用薬
- 滋養強壮薬
- その他代謝性医薬品
- 漢方製剤
- 化学療法剤

消化器官用薬、中枢神経系  
用薬、循環器官用薬

↓  
処方提案しやすい  
受諾されやすい

# ポリファーマシー対策を**多職種&地域**で 実践するためのポイント

- ・スクリーニングツール作成（効率的な情報収集＆多職種連携）
- ・ポリファーマシー対策への理解（啓発活動）
- ・シームレスな情報共有（地域連携）



特に効果的であったと考える項目



# 「地域における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」

## (5) 地域で啓発活動を行う

- ・地域全体でポリファーマシー対策を推進するためには、多様な医療・介護関係者が、地域の関係者の理解のもと、それぞれの役割をもって積極的に協働できる環境が醸成されることが必要である。そのために、地域ポリファーマシーコーディネーター等による医療・介護関係者への普及啓発活動はポリファーマシー対策を推進する上で非常に重要な取り組みになる。（処方変更を主導的に担う主治医に対する普及啓発は、特に重要な要素である。）また、薬剤調整を支援する者（薬剤調整支援者）に対してポリファーマシー対策の重要性を改めて啓発を行う・薬剤調整を支援する者（薬剤調整支援者）同士による検討会を実施する等の方法で処方確認の流れや処方変更の提案の流れを共有することが重要である。
- ・医療・介護従事者への普及啓発活動は医師会・薬剤師会等が主導で勉強会を実施する他、地域のポリファーマシー対策に関する意識調査のアンケートを実施し、その結果をフィードバックすること等で実施することができる。
- ・更に、ポリファーマシー対策を実施するにあたって患者の理解が重要であることから、地域のイベント等で患者向けの啓発活動を行うことも重要である。

医薬安発0722第1号  
令和6年7月22日

各  
〔都道府県〕  
保健所設置市  
〔衛生主管部（局）長 殿  
特 別 区〕

厚生労働省医薬局医薬安全対策課長  
( 公 印 省 略 )

「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」及び  
「地域における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」について

医療行政の推進につきましては、平素から格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
高齢化の進展に伴い、加齢による生理的な変化や複数の併存疾患を治療するための医薬品の多剤服用等によって、安全性の問題が生じやすい状況にあることから、平成29年4月に「高齢者医薬品適正使用検討会」を設置し、高齢者の薬物療法の安全確保に必要な事項の調査・検討を進めており、これまでに「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）」、「高齢者の医薬品適正使用の指針（各論編（療養環境別））」及び「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」を取りまとめ、「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」について（令和3年3月31日付け医政安発0331第1号・薬生安発0331第1号厚生労働省医政局総務課医療安全推進室及び厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長連名通知）等により周知したところです。

今般、本年6月に開催された同検討会での議論を経て、別添のとおり「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」の改訂版（様式事例集の改訂を含む）、「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）」別表3・別表4の改定及び「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」を取りまとめましたので、貴管下医療機関等において、医薬品に係る医療安全推進のため、ご活用いただきますよう、周知方お願いいたします。

令和6年7月22日付け医薬安発0722第1号  
<https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/001277340.pdf>

地域での啓発活動には医師会・薬剤師会の研修会を活用  
意識調査のアンケートも重要

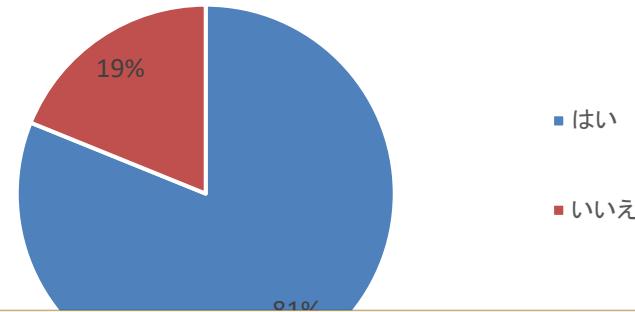


Mitoyo General Hospital

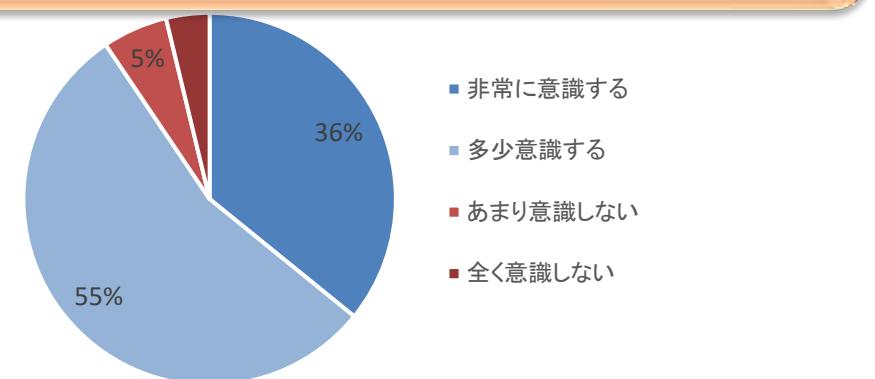
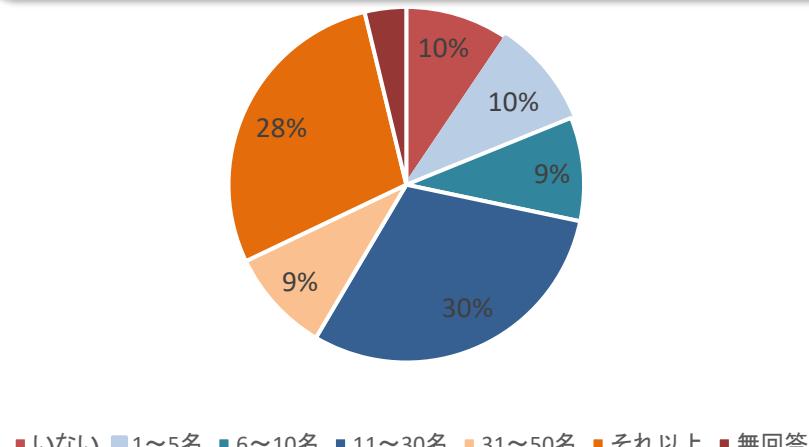
# アンケート調査結果（対象：三豊観音寺地域の医師）

51施設、53名の医師から回答  
(回答率：60%)

これまで「ポリファーマシー」という言葉を聞いた事が  
ありましたか？



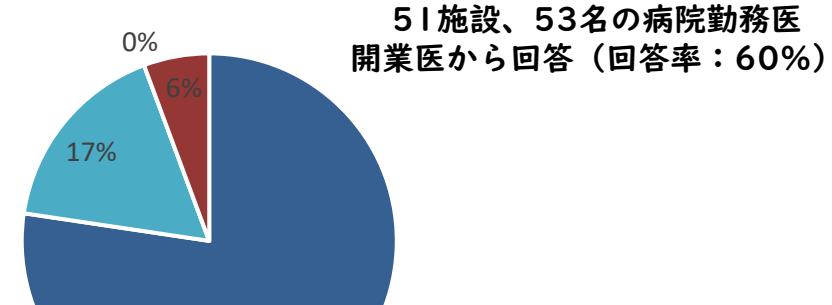
8～9割の先生方は多剤服用中の患者を担当されており、  
ポリファーマシーを意識して診療をされている



■ いない ■ 1～5名 ■ 6～10名 ■ 11～30名 ■ 31～50名 ■ それ以上 ■ 無回答

# 地域医師会/薬剤師会（観音寺三豊）への啓発活動

Q:当院入院中の患者全てを対象としてポリファーマシー対策を実施しても良いですか？



Q:ポリファーマシー対策を拡充していく際に  
重要だと思う項目は（複数回答可）？



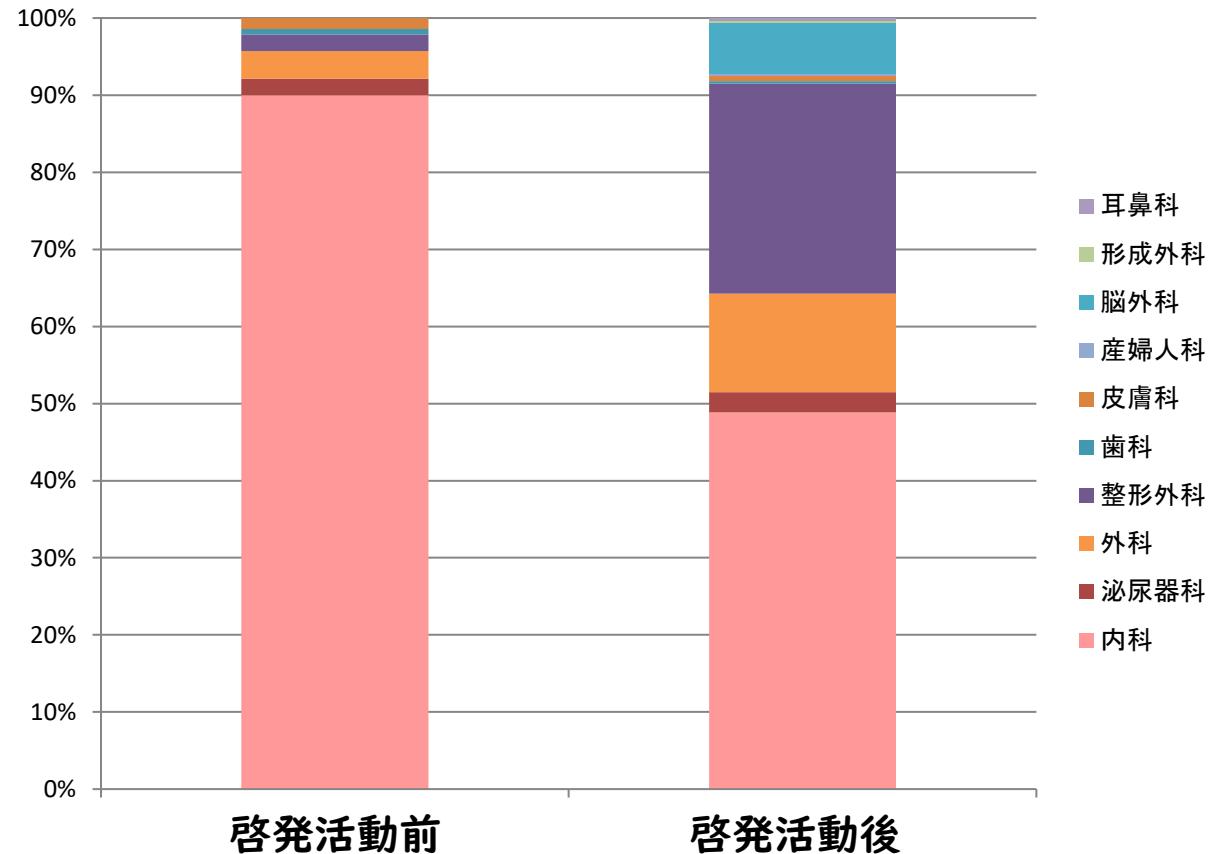
地域医師会の理解と協力は必須！

- 入院中のポリファーマシー対策及び退院後の継続対応希望
- 入院中のポリファーマシー対策は必要に応じて可
- 入院中のポリファーマシー対策は不要
- 無回答

回答頂けた**全ての医師**から  
入院中のポリファーマシー  
対策について承認が得られた

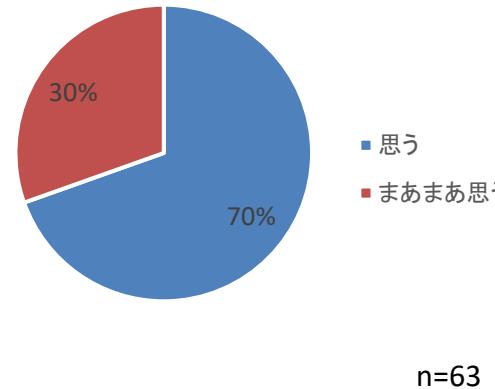
薬剤に関する**情報共有**は必須

# ポリファーマシー介入を実施した患者の診療科

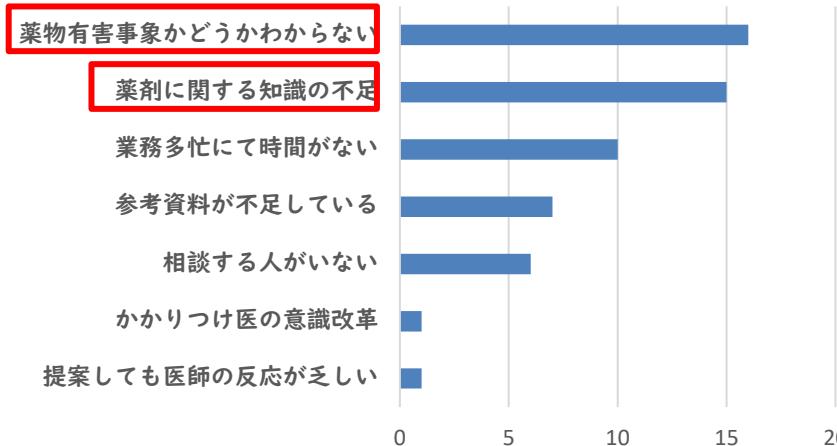


院内医師及び地域医師会から同意が得られたため、  
全科に拡大

Q:日常業務を行う中で「ポリファーマシー」を意識した業務を行いたいと思われますか？



Q:ポリファーマシー対策を実践する上で、どのような問題点がありますか？（複数回答可）



# 地域薬剤師会と協働した啓発活動

## 第9回 西讃地区地域医療連携講演会

日時:令和5年11月30日(木) 18:45~20:30  
場所:ハイスタッフホール(観音寺市民会館)  
住所:観音寺市観音寺町甲 1186-2 TEL:(0875) 23-3966  
形式:現地 & オンラインのハイブリット方式  
ZOOMウェビナーを用いたWEB参加方式に対応しております。裏面をご確認ください。

- 製品紹介 18:45~18:55 製品紹介 明治抗うつ薬 Meiji Seika フルマ侯
- 閉会の辞 18:55~19:00 観音寺市地域包括支援センター 所長 和泉 和子 先生
- 一般演題 19:00~19:30 座長 観音寺・三豊薬剤師会 会長 矢野 祐浩 先生  
「当地域におけるポリファーマシー対策の現状」

三豊総合病院 薬剤部 陶山 泰治郎 先生

- 特別講演 19:30~20:30 座長 三豊総合病院 薬剤部 副薬剤部長 篠永 浩 先生  
「ポリファーマシー対策の推進」  
～多職種協働を進めるために必要なことは？～
- 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
- 薬剤部/長寿医療研修部 高齢者薬学教育研修室長 清神 文博 先生
- 閉会の辞 20:30~ 三豊総合病院 司院長 中津 守人 先生

ポリファーマシー関連研修会を定期的に開催

第27回 観音寺・三豊薬剤師会連携セミナーのご案内  
(ZOOM配信と会場でのリアル開催)

★ZOOM受講、会場受講ともに研修センターの単位が取得できます。（時間厳守になります。）  
★病院薬剤師単位をご希望の先生は香川県病院薬剤師会HPより事前申し込みをお願い致します。  
会場での最大聴講人数は50名（事前申し込み必須及び先着順）

留意事項について  
■演者、聴講者の先生方には、入室時にマスク着用、手指消毒をお願い申し上げます。

日 時 : 2023年8月3日(木) 19:00~20:45

形 式 : ZOOM配信と会場でのリアル開催

会 場 : 観音寺グランドホテル 1階「パール」  
香川県観音寺市坂本町5丁目 18-40

Opening Remarks 19:00~19:15

【演者】三豊総合病院 薬剤部 薬剤部長 加地 努先生

特別講演 I 19:15~19:45

座長 観音寺・三豊薬剤師会 会長 矢野 祐浩先生

「老健施設（病院併設型）における薬剤適正使用への薬剤師の関わり」

【演者】三豊総合病院 薬剤部 陶山 泰治郎先生

特別講演 II 19:45~20:45

座長 三豊総合病院 薬剤部 副薬剤部長 篠永 浩先生

「老健施設におけるポリファーマシー対策の取組」

【演者】介護老人保健施設 横浜あおばの里 薬剤部  
薬局長 丸岡 弘治 先生



# 患者・家族啓発用の資料



一般社団法人日本老年医学会  
The Japan Geriatrics Society

TOPへ お知らせ 提言・見解 研修会等 表彰・助成 学術情報・資料

日本老年医学会雑誌 Geriatrics & Gerontology International

老年病専門医制度  
老年病専門医  
新しい老年病専門医制度について  
専門医、認定施設、指導医一覧  
専門医の皆様へ  
専門医を目指す皆様へ

専門医(更新)・指導医(新規・更新)  
認定施設(新規・更新)

第63回 日本老年医学会学術集会  
高齢化最先進国への医療の在り方  
—老年医学から高齢社会への提言—  
会期 2021年6月11日～27日  
WEB開催

お問い合わせ、各種手続き

支部・地方会情報

English

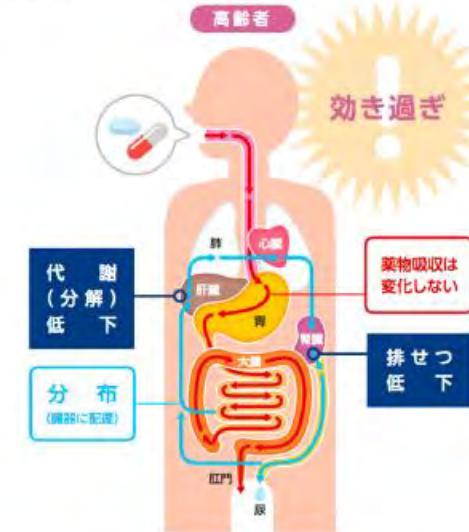
会員専用ページログイン  
ID・パスワードがわからない場合

サイト内検索  
ENHANCED BY Google



## 高齢者に副作用が多くなる理由

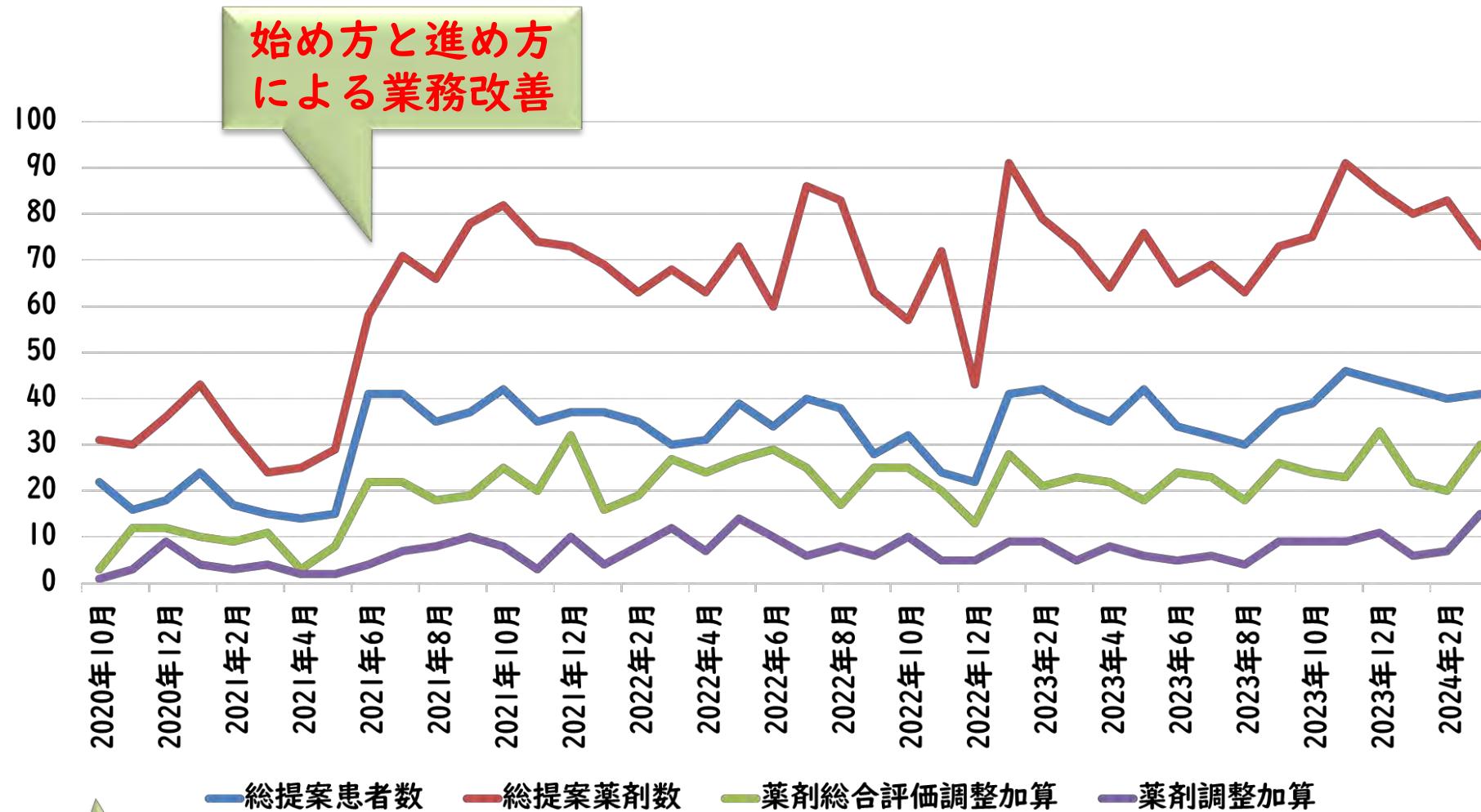
高齢者に薬の副作用が多くなる理由は、薬の種類が多い事だけではありません。加齢によって薬の効き方が変化することも影響しています。飲み薬を例にとって説明しましょう。



口から飲んだ薬は胃や小腸で吸収され、血液にのって全身に運ばれ、目的の組織に到達(分布)すると、効き目を発揮します。薬は、徐々に肝臓で代謝(分解)されたり、腎臓から排泄されたりして、効き目がなくなります。ところが、高齢者になると、肝臓や腎臓の機能が低下して、代謝や排泄までの時間がかかるようになります。そのため、薬が効きすぎてしまうことがあります。

患者・家族の理解はとても重要！

# ポリファーマシー介入&算定状況



# ポリファーマシー対策を**多職種&地域**で 実践するためのポイント

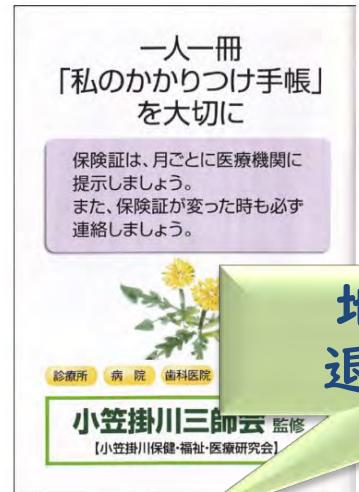
- ・スクリーニングツール作成（効率的な情報収集＆多職種連携）
- ・ポリファーマシー対策への理解（啓発活動）
- ・シームレスな情報共有（地域連携）



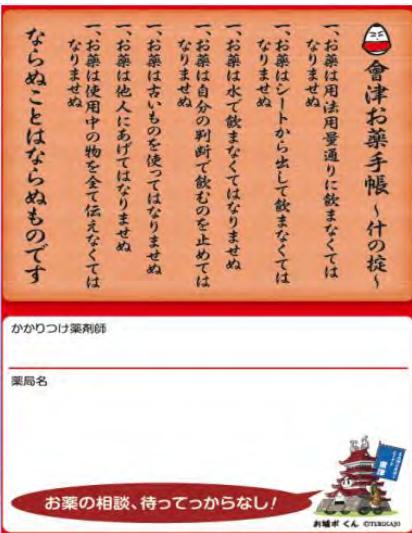
特に効果的であったと考える項目



# お薬手帳によるケア移行時の情報連携



地域多職種で活用  
退院サマリーを記載



## 開業医での記載

## 保険薬局での記載

竹田綜合		薬局病院
2017年10月3日(日)		
前四と同じ		
中止(薬品名) ✓その他の理由		
理由と連絡		
医方箋 提出 理由	□ヒート □一型化 □粗 破 □その他	
	評議	
余地がある事項		
誤字の有りか		
肝臓の検査		
肝臓の検査		
腎臓の検査		
腎臓の検査		
胃腸の検査		
胃腸の検査		
その他		
病院薬剤師の提案		
◎あなたへのメッセージ		
B-1の点滴静脈内 ソフトナフチアを すすめました。使用約6箇月は1日6回静 点液12F点滴。		
担当薬剤師 0242 28-8335		
◎あなたからのメッセージ(医師・看護師へ)		
※ ソフトナフチアご指導をお願いします。 → 2018年2月19日輸入出した		

病院薬剤師の提案

薬局薬剤師の返答

竹田綜合		薬局・病院
2017年11月7日(火)		
処方箋 裏面 内容	<input checked="" type="checkbox"/> 前回と同じ	
	<input type="checkbox"/> 中止(薬品名: )	
	<input type="checkbox"/> その他の理由	
剤形の 選択理由	<input checked="" type="checkbox"/> ヒートローパック	
	詳細	
余りがあるお薬	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
医師への連絡状況	<input type="checkbox"/> 有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
検査の 結果	AST(32) SGOT(288)	MALT(15) MUN(129)
	白血球2900 血色素量13.0 血小板14.1 NEUT(%) 39.8	日本明 日本明
○あなたへのメッセージ		
<p>十日は秋深め対策を行って下さい。      クロマー、39.5度以上の發熱が      あれば帰宅してはじめ診て下さい。</p> <p>次回リバウンド後 11/28(火) 9時予定</p>		
<p>○あなたからのメッセージ(医師・看護師へ)</p> <p>-&gt;ハイヂニア - 3年残り</p> <p>半身不全で元気を保つには生活習慣を改善</p>		

## 地域共通で活用 副作用が軽減

# 日病薬 薬剤管理サマリー（令和5年度改訂版）

一般社団法人  
日本病院薬剤師会  
Japanese Society of Hospital Pharmacists

日病薬発第2023-139号  
令和5年10月12日

会員各位  
一般社団法人 日本病院薬剤師会  
会長 武田 泰生  
日本病院薬剤師会 療養病床委員会  
委員長 渡田 恵一

## 薬剤管理サマリー（令和5年度改訂版）の発出について

平素より、日本病院薬剤師会の活動にご高配をいただきまして御礼申し上げます。

さて、本会では平成17年に「薬剤管理サマリー」を作成し、平成30年に改訂版を公開、個々の施設に適応するよう作り変えて活用いただくとともに、返書を活用した双方向の情報提供・共有もできるようになり、令和3年には小児版薬剤管理サマリー、令和5年には精神科版薬剤管理サマリーも作成し、各領域で特徴的な項目に改編し、現在多くの医療機関で情報連携ツールとして使用されています。

令和2年度診療報酬改定では退院時薬剤情報連携算が新設され、保険薬局への情報提供文書として薬剤管理サマリーが挙げられ、更なる活用が図られています。そのような中、病院完結型医療から地域完結型医療への変化、地域の医療機能分化はさらに進み、保険薬局のみならず、他の医や介護老人保健施設、医師や多職種への情報提供ツールとしても活用されています。

この度、療養病床委員会では先に実施した「薬剤管理サマリーの利活用に関するアンケート調査」の結果や現状を踏まえ『薬剤管理サマリー（令和5年度改訂版）（以下、令和5年度改訂版）』を発出する運びとなりました。

この令和5年度改訂版は、情報量も多くなっていますが、必ずしもすべてを網羅しなければサマリーを発行できないわけではなく、必要な情報、重要なポイントのみに絞って発行いただくことで切れ目のない薬物療法支援が継続可能になりますので、この機会に今までサマリーを発行していなかった会員施設におかれましても幅広くご活用いただければ幸いです。

つきましては、会員の皆様に広く周知いただき、切れ目のない薬物療法支援のためにご活用いただければと存じます。

## 薬剤管理サマリー（令和5年度改訂版）の使用にあたって

薬剤管理サマリー（令和5年度改訂版・記載例）

薬剤管理サマリー（令和5年度改訂版返書・記載例）

薬剤管理サマリー（令和5年度改訂版・返書）

薬剤管理サマリー						作成日 2023/8/10
○○病院 担当薬剤師様 御申						
下記患者様の入院中の薬学的管理・支援等について共有させていただきますので引き続き支援の程お願いいたします。						
氏名 日病 太郎 性別 男 生年月日 1930/8/8 年齢(歳) 93 身長(cm) 155 体重(kg) 50 体表面積BSA(m <sup>2</sup> )(Du Bois式) 1.47 入院日 2023/7/1 退院日(予定日) 2023/8/12 入院期間 42 日 入院時の病歴 一般病歴 退院時の病歴 地域包括ケア病院 主治医 渡辺 次郎 診療科 整形外科 今回の入院の目的・病名等 右大腿骨転子部骨折						
入院時情報(薬学的総合評価)						
服薬管理状況	<input checked="" type="checkbox"/> 自己管理	<input type="checkbox"/> 看護師管理	<input checked="" type="checkbox"/> 介助者(孫へ看管)管理	<input type="checkbox"/> その他		
調剤方法	<input checked="" type="checkbox"/> PTP等	<input type="checkbox"/> 一日包	<input type="checkbox"/> 簡易包装	<input type="checkbox"/> 粉砕	<input type="checkbox"/> その他	
投与経路	<input checked="" type="checkbox"/> 経口	<input type="checkbox"/> 経皮	<input type="checkbox"/> 経鼻	<input type="checkbox"/> 経膣	<input type="checkbox"/> その他	
認知機能低下の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 指標としたツール	病名判断	アルツハイマー型認知症	
アトビアラス状況	<input checked="" type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 多少問題あり	<input type="checkbox"/>	下肢	その他	
副作用・アレルギー歴	なし					
お薬情報ツールの確認	お薬手帳	持参	薬剤管理サマリー	無	その他 血圧手帳	
検査情報						
腎機能 (測定日) 2023/9/5	SCr(mg/dL) 0.9	GFR(DGm <sup>-2</sup> mL/min) 29.4				
その他特異すべき検査情報	肾小球濾過率(GFR)(ml/min, 24時間)	59.7	個別化GFR(ml/min)	50.6		
持参薬情報						
4 剤	処方医療機関	A ニュホン病院	B テグリック	C		
施設	医薬品名	1日量	用法	入院後摂取	転院の理由等	
A	アムロジン5mg	1錠	朝食後	減量	血圧低値	
A	ファモジン錠20mg	2錠	朝夕食後	減量	腎機能障害あり	
A	マグニト錠330mg	2錠	朝夕食後	絶続		
B	メマンチン錠10mg	1錠	朝食後	絶続		
入院中の経過						
日付	経過区分	医薬品名	経過の理由等			
7/1	追加	カルナール200mg	疼痛コントロールのため3T 3×NPOにて内服開始			
7/1	添量	ファモジン20mg	腎機能障害あり、ファモジン10mg 1日1回に変更			
7/5	追加	チアブリド25mg	入院後不整脈あり1T 1×Aで内服開始			
7/15	添量	カルナール200mg	地域包括ケア病院への転院、疼痛軽減傾向のため2T 2×MAに減量			
入院中の薬学的管理・支援に関する経過等						
自宅にて転下転倒し、右大脛骨転子部骨折にあり、手術目的で入院。 入院時～疼痛コントロール目的にてカルナール200mg 3T 3×NPOにて内服開始。 入院時血圧維持にて腎機能障害あり、ファモジン低量維持にかかるため、ファモジン10mg 1日1回に減量。 入院後、不整・夜間せん妄あり、チアブリド内服開始、内服にて落ち着き、夜間も良眠しています。 地域包括ケア病院へ転院後、疼痛軽減傾向にて、カルナール200mg 2T 2×MAに減量。チアブリド歩行訓練にて疼痛増強することあり、母法を2×MAに変更。変更にて疼痛自制内です。 吸痰時血圧100-110mmHg推移し、100mmHgを下回ること多く、リハビリ時もつきあり、転倒リスクあるため、アムロジン5mg→アムロジン2.5mgに減量。減量後、吸痰時血圧110-120台推移安定、ひつつきも落ち着いています。						
退院時処方						
6 剤	添量しない漢方の有無	<input type="checkbox"/> 無	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 一時	有の場合の対応	
医薬品名	1日量	用法	日数	特記事項		
アムロジン5mg	0.5錠	朝食後	14日			
ファモジン10mg	1錠	朝食後	14日			
メマンチン10mg	1錠	朝食後	14日			
カルナール200mg	2錠	朝食後	14日	減量検討中、疼痛状況に合わせて調節可。		
マグニト330mg	2錠	朝夕食後	14日	PTP剥離		
チアブリド25mg	1錠	夕食後	14日			
◆提供した本文書以外のお薬情報						
お薬手帳	手帳シール(未持参のため)	薬剤情報提供書	その他	血圧手帳(更新)		
薬剤粉末評価調整加算	未算定	対象薬				
薬剤調整加算	未算定	対象薬				
退院後の薬学的管理・支援のフォローアップ依頼内容等						
(1)処方変更に伴う結果評価 (2)アトビアラスの改善 (3)投与方法 (4)ホワーマー対策 (5)効果判定及び副作用モニタリング (6)認知機能 (7)身体機能 (8)生活環境 (9)その他						
カルナールは疼痛状況に合わせて調節いただよう説明しています。退院後、疼痛落ち着いているようでしたら、減量・服用への変更についてご検討お願いいたします。						
血圧低めにアムロジン減量しています。減量にて血圧110-120台推移し、ふらつきなどなく経過しています。引き続き退院後の血圧のモニタリングをお願いします。						
入院中、不整・夜間せん妄にてチアブリド内服開始となっています。退院後、減量になるようでしたら中止についてご検討お願いいたします。						
以上ご不明な点がございましたら下記までご連絡ください。						
○○の病院	病院	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目12番15号	担当薬剤師	★★		
TEL: 03-*****-***** FAX: 03-*****-*****						
Email: yakuzaibu@***.or.jp						

是非、自施設/地域でご活用ください！

# 当地域で使用している薬剤管理サマリー

薬剤管理サマリー		登録チーム名		地域連携チーム		担当薬剤師		既往歴		更新日	
患者ID	性別	年齢	入院日	予定期間	入院日	診断	既往歴	既往歴	既往歴	氏名	年月日
1234567890	女性	65歳	2024/05/10	半年	2024/05/10	脳梗塞	高血圧	糖尿病	心臓病	田中 淳一	2024/05/10

生活機能考慮した薬学的注意点

## ①認知機能評価

PIMsの服用歴あり。継続・再開時は認知機能

生活機能評価	MMSE	19	MMSE22未満で認知症の疑い
注意を要する薬剤 (PIMsを含む)	プロチゾラムOD錠0.25mg「サワイ」	継続	過鎮静、認知機能の悪化、せん妄等リスクあり。

## ②身体機能評価

PIMsの服用歴あり。継続・再開時はふらつき、転倒に注意が必要です。

生活機能評価	転倒の有無	なし	入院中の転倒はありません。
	転倒リスク(I<II<III)	II	II:転倒を起こしやすい

患者の生活機能を把握し、適正な薬物療法を実践

注意点 (PIMsを含む)	PIMsの服用歴あり。継続・再開時は食事量の低下に注意が必要です。		
	内服方法	簡易懸濁	嚥下機能の低下あり。簡易懸濁で服用中。

生活機能評価	FOIS(リスク: Lv.1>7)	Lv.5	Lv.5:特別な準備や代償が必要(きざみ食とろみかけなど)
	GNRI	78.3	98点より小で軽度、92点より小で中等度、82点より小で重度リスク
	GLIM	低栄養リスクあり	体重やBMI等の減少の程度により、中等度又は高度栄養障害に分類

注意を要する薬剤 (PIMsを含む)	プロチゾラムOD錠0.25mg「サワイ」	継続	嚥下関連筋肉弛緩、唾液分泌低下・口腔内乾燥リスクあり。
-----------------------	----------------------	----	-----------------------------

③摂食嚥下機能評価	PIMsの服用歴あり。継続・再開時は食事量の低下に注意が必要です。		
生活機能評価	内服方法	簡易懸濁	嚥下機能の低下あり。簡易懸濁で服用中。
	FOIS(リスク: Lv.1>7)	Lv.5	Lv.5:特別な準備や代償が必要(きざみ食とろみかけなど)
	GNRI	78.3	98点より小で軽度、92点より小で中等度、82点より小で重度リスク
	GLIM	低栄養リスクあり	体重やBMI等の減少の程度により、中等度又は高度栄養障害に分類
注意を要する薬剤 (PIMsを含む)	プロチゾラムOD錠0.25mg「サワイ」	継続	嚥下関連筋肉弛緩、唾液分泌低下・口腔内乾燥リスクあり。

認知機能(MMSE)  
身体機能(BI、転倒リスク、転倒有無)  
嚥下機能/栄養(FOIS、GNRI、GLIM)

各種生活機能と  
関連するPIMs

# 当地域で使用している薬剤管理サマリー（処方情報）

【中止薬】 タリオン錠10mg、チザニジン錠1mg、ナゾネックス点鼻液50μg/112噴霧用					
【入院時処方内容(持参薬)】			【退院時処方内容】		
薬剤名	1日量	薬剤名	1日量	変更の有無	変更内容
1 ピソロロールカルボン酸塩錠2.5mg「KM」 分1 朝食後	0.5錠	1 ピソロロールカルボン酸塩錠2.5mg「サワイ」 分1 朝食後	1錠	変更あり	増量 0.5⇒1T
2 モンテルカスト錠10mg「KM」 分1 朝食後	1錠	2 モンテルカスト錠10mg「KM」 分1 眼前	1錠	継続	
3 タリオン錠10mg 分2 朝夕食後	2錠	3 ニフェジピンCR錠20mg「サワイ」 分1 夕食後	2錠	継続	
4 チザニジン錠1mg 分3 每食後	1錠	4 アドエア250ディスカス60吸入用 1日2回 1回1吸入	1キット	継続	
5 ニフェジピンGR錠80mg「三和」 分1 夕食後	1錠	5 シロドシンOD錠4mg「DSEP」 ハーフキロト合せ	2錠	継続	
6 アドエア250 1日2回					
7 ナゾネックス点鼻液50μg/112噴霧用 1日1回 1回2喷霧		7 プロチズラムOD錠0.25mg「サワイ」 分1 眼前	1錠	継続	
8 シロドシンOD錠4mg「DSEP」 分2 朝夕食後	2錠	8 アジルサルタン錠20mg「DSEP」 分1 朝食後	1錠	追加	
9 デュクステリド錠0.3mg/4v「明治」 分1 朝食後	1錠				
10 プロチズラムOD錠0.25mg「サワイ」 分1 眼前					

入院中の薬剤中止情報

持参薬情報と比較した  
退院時処方の変更点

- ・変更の有無
- ・変更内容(増量or減量、  
用法変更等)

処方情報はなるべくシンプルに、伝いたい情報を強調

持参薬情報 \*自動抽出+詳細を記載

退院時処方情報 \*自動抽出+詳細を記載

# 当地域で使用している薬剤管理サマリー（返書）

診療科	保険薬局 名称・所在地		
医師名			
院内担当薬剤師	森永 啓		
患者ID	電話番号	FAX番号	
患者名	担当薬剤師	印	
入院日	退院日	この情報を伝えることに対して患者様の同意を <input type="checkbox"/> 待た <input checked="" type="checkbox"/> 待てない □ 患者様は医師への報告を拒否していますが、治療上重要なと考えられるので報告します。	

## 退院時に皆様へ

### 退院時処方内容からの薬の変更

#### ① 下記3つの質問を患者様に

- 1 ここ1ヶ月で薬の飲み忘れがあった  
⇒はいの場合は退院後の80%以上の服薬順守
- 2 薬を飲むと不注意で間違ったことがあった  
⇒はいの場合は退院後の80%の8
- 3 自己判断で薬を調節した

#### ② 薬剤管理サマリー（以下；サマリー）からの引き抜き事項について評価をお願い致します。

副作用モニタリング 処方変更に伴う薬学的評価 薬剤投与方法と注意を要する薬剤 フレイル・低栄養と要する薬剤 認知機能の低下と注意を要する薬剤

#### ※生活機能を考慮した薬学的注意

##### 認知機能に注意を要する薬剤

プロチソラムOD錠0.25mg「サワイ」

##### 身体機能に注意を要する薬剤

シロドシンOD錠4mg「DSEP」

プロチソラムOD錠0.25mg「サワイ」

##### 摂食嚥下機能に注意を要する薬

プロチソラムOD錠0.25mg「サワイ」

#### ③ 薬局薬剤師視点より、結合

問題なし

#### ④ 診療指導後に対応を行った

管理方法の提案

管理者の変更の提案

調剤形態変更の提案

電話フォローを行う予定

残数調整

薬剤調整

その他（ ）

#### ⑤ 生活環境

退院時：自宅夫婦

変更なし

#### ⑥ サマリーの情報等を参考に、

\*「はい」の場合：情報提供による効果

\*「はい」の場合：情報提供の方法

症状照会

トレーシングレポート

#### 【報告および添付本】

トレーシングレポートとして、次回外来時に主治医へ報告を希望する場合、チェックを入れてください。

## ① 下記3つの質問を患者様に対し、お願い致します。

- 1 ここ1ヶ月で薬の飲み忘れがあった  
⇒はいの場合は退院後の80%以上の服薬順守  
2 薬を飲むと不注意で間違ったことがあった  
⇒はいの場合は退院後の80%の8  
3 自己判断で薬を調節した

## （入院時初回面談時の回答）

- （いいえ）  
（問題なし）  
（いいえ）  
（いいえ）  
（いいえ）  
（いいえ）

## ② 薬剤管理サマリー（以下；サマリー）からの引き抜き事項について評価をお願い致します。

副作用モニタリング 処方変更に伴う薬学的評価 薬剤投与方法と注意を要する薬剤 フレイル・低栄養と要する薬剤 認知機能の低下と注意を要する薬剤

- ➡  問題あり  
 今後も継続したフォローが必要  
 問題なし

## ※生活機能を考慮した薬学的注意点に関するリスク評価（入院中に得られた生活機能評価についてはサマリーをご参照ください。）

認知機能に注意を要する薬剤	病院薬剤師からのリスク評価の詳細	処方状況	薬局薬剤師による評価
プロチソラムOD錠0.25mg「サワイ」	過鎮静、認知機能の悪化、せん妄等リスクあり	絶粒・中止	問題なし・問題あり
身体機能に注意を要する薬剤	病院薬剤師からのリスク評価の詳細	処方状況	薬局薬剤師による評価
シロドシンOD錠4mg「DSEP」	起立性低血圧、転倒等のリスクあり	絶粒・中止	問題なし・問題あり
プロチソラムOD錠0.25mg「サワイ」	過鎮静、認知機能の悪化、せん妄等リスクあり	絶粒・中止	問題なし・問題あり
摂食嚥下機能に注意を要する薬剤	病院薬剤師からのリスク評価の詳細	処方状況	薬局薬剤師による評価
プロチソラムOD錠0.25mg「サワイ」	嚥下関連筋肉弛緩、唾液分泌低下・口腔内乾燥リスクあり	絶粒・中止	問題なし・問題あり

## 服薬アドヒアランス

## 入院中に注意喚起した問題点の外来での状況

## 患者の生活機能やPIMsに関連する問題点

## 患者の暮らしの視点による処方提案

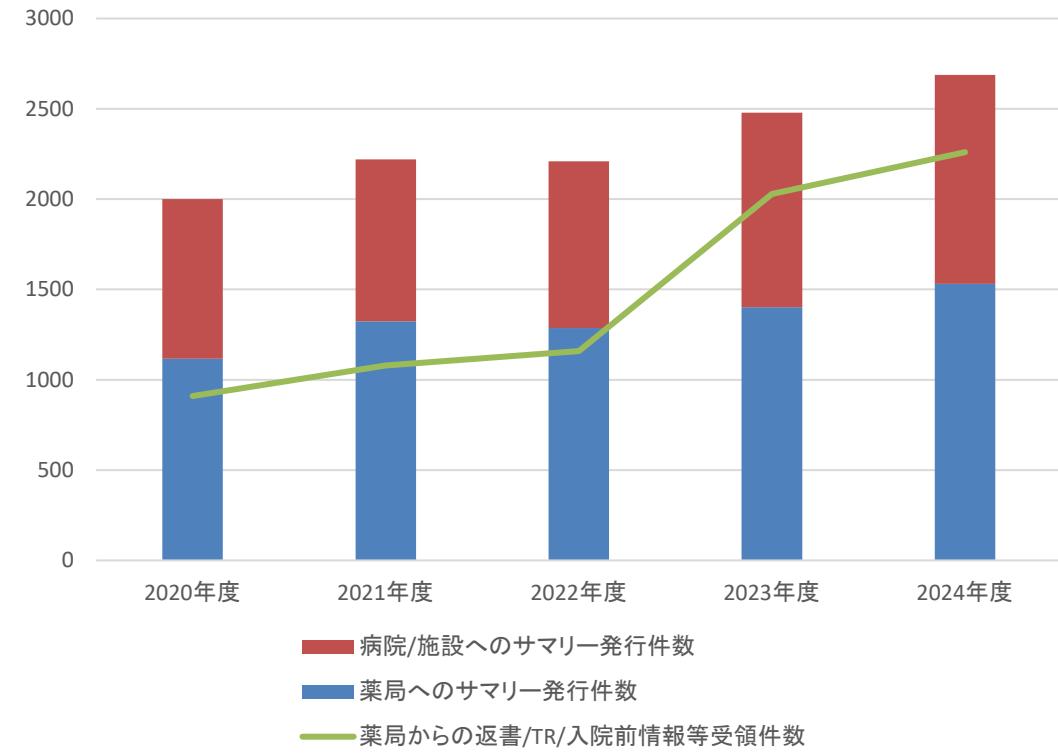
# ポリファーマシー対策はフォローアップが重要

処方変更後に特に経過観察が必要となる項目

- 食事に関して（摂取量、口腔乾燥、食事の味など）
- 血圧の変化
- 睡眠に関しての聞き取り
- 排泄の確認（排便状況、排尿回数）
- 検査値の変化（腎機能や肝機能など）
- 疼痛に関して など

処方提案内容が正しいかは経過観察を行わない限りわからない

# かかりつけ医＆薬局への情報提供（薬剤管理サマリー）の効果



調査期間：2021年6月～2023年5月  
調査対象：ポリファーマシー介入患者



退院後のかかりつけ医による  
ポリファーマシー対策継続状況は  
**91.2% (83/91症例)**

多職種から得られた各種情報を提供  
双方向性に年間2000件以上

情報共有ツールの活用 &  
地域医師会/薬剤師会の協働

ポリファーマシー対策における情報共有効果は大きい

# 薬剤管理サマリーの効果～疑義照会

調査期間：2022年1月から2023年12月

調査対象：入院中に処方変更があり、

調査方法：**サマリー送付の有無により  
より共变量（年齢、退院時）**

主要評価項目：90日以内の**保険薬局**による  
疑義照会（あり/なし）

(3) 第13103号



には薬剤管理サマリーを発行して、患者の許可を得て薬局にFAXで送信している。60件の返信を受け取り、うち薬局から約22件を設けるなど工夫を凝らして薬局から年間約22件の情報共有が実現している。その結果として、同サマリーの有無で比較した結果では、薬局薬剤師の疑惑照会率は8・

て経過観察や連続介入の依頼、検査などを記載し、転院先の薬剤師に向けた介入された薬物療法の課題を示した。介入された薬物療法の課題を示した。依頼書には、入院中の新規開始薬や中止薬、変更点、薬剤に関する患者状態、検査結果などを記載した。

## 疑義照会（あり/なし）

サマリーによる情報共有にて疑義照会（あり/なし）

論文

原著論文

## 病棟薬剤業務における入院時施設間情報連絡書の活用に関する実態調査

稻葉聰二郎<sup>1\*</sup>、相良薦信<sup>1</sup>、渡辺智之<sup>1</sup>、岩本淳平<sup>1</sup>、古浜健一<sup>1</sup>

社会福祉法人ワケン福祉会総合相模更生病院薬剤部<sup>1</sup>、星美科大学実務教育研究部門<sup>1</sup>

**Survey of Practical Utilization of Information Liaison Forms for Ward Pharmacy Services at the Time of Admission**

Kenjiro Inaba<sup>1†</sup>, Atsunobu Sagara<sup>1</sup>, Tomoyuki Watanabe<sup>1</sup>, Junpei Iwanoto<sup>1</sup>, Kenichi Furuhama<sup>1</sup>

Department of Pharmacy, General Sagami Kousei Hospital<sup>1</sup>

Division of Applied Pharmaceutical Education and Research, Hoshi University<sup>1</sup>

（受付：2025年2月13日　受理：2025年11月12日）

入院時の施設間情報連絡書を用いた情報共有が推進されている。これまでに、施設間情報連絡書の運用実態と効率的な運用方法が報告されているが、施設間情報連絡書で得られた新規情報が、病棟薬剤業務においてどのように活用されているかを調査した報告はない。そこで本研究では、病棟薬剤業務における入院時施設間情報連絡書の活用状況を明らかにする目的で、施設間情報連絡書により得られた新規情報の病棟薬剤業務への活用率とその内容を調査した。その結果、薬局薬剤師の主体的な情報提供内容が、持参薬服薬計画提案や処方提案といった病棟薬剤業務に活用されており、入院時の施設間情報連絡書による薬・薬連携は病棟薬剤業務に活用可能であることが示された。今後、医療DXが推進され、患者基本情報が共有されるようになっても、入院治療の質向上のために施設間情報連絡書による情報共有は引き続き重要であると考えられた。

キーワード—施設間情報連絡書、服薬情報等提供料3、病棟薬剤業務、処方提案、持参薬服薬計画提案

（以下、かかりつけ薬局等）に施設間情報連絡書の作成依頼を実施してきた。過去の研究にて著者らは、かかりつけ薬局等からの施設間情報連絡書の返信率、入院時に病院が持ち合わせていない患者情報（以下、新規情報）の得率率、新規情報が効果的に得られる患者の背景因子を明らかにし、施設間情報連絡書の運用実態と効率的な運用方法を明らかにしてきた。しかし、施設間情報連絡書を通じてかかりつけ薬局等から得られた情報が、病棟薬剤業務においてどのように活用されているかを調査した報告はない。

そこで本研究では、病棟薬剤業務における入院時施設間情報連絡書の活用状況を明らかにする目的で、施設間情報連絡書により得られた新規情報の病棟薬剤業務への活用率とその内容を調査した。

\*神奈川県相模原市中央区小山3429-3429, Oyama, Chun-ku, Sagamihara-shi, Kanagawa, 252-5225 Japan

†共同筆頭著者

者

5

# 地域連携対策を検討される際には・・・

地域医療連携の手引き  
(Ver.2.0)

地域医療連携  
実例集  
(Vol. 1)

地域医療連携  
実例集  
(Vol. 2)

地域医療連携  
実例集  
(Vol. 3)

地域連携対策の業務改善/効率化に是非、ご活用ください！

一般社団法人 日本病院薬剤師会  
令和5年6月7日

2018  
団法人

2019年  
一般社団法人

2022年6月1日  
一般社団法人 日本病院薬剤師会



Mitoyo General Hospital

# 多職種&地域とタスク・シフト/シェアで取り組んだ業務



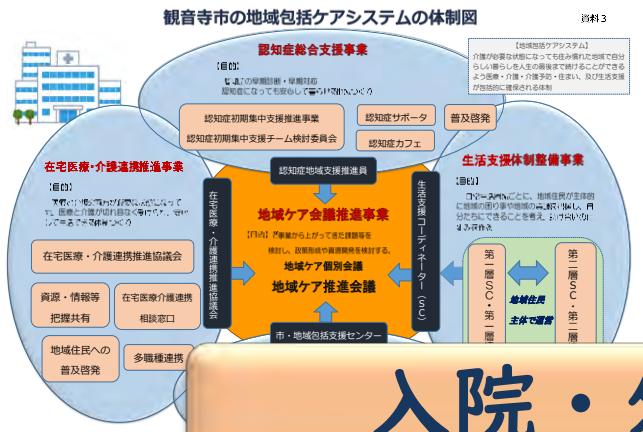
## ポリファーマシー対策



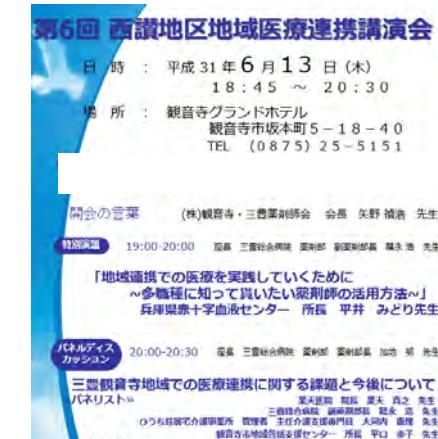
## 情報共有対策



## 地域での介護予防対策



## 在宅介入＆老健対策



入院・外来・地域の薬学的連携の質と量を高める

# 当地域における訪問薬剤管理指導導入の取り組み

A : 医師の指示型

医師・歯科  
医師からの  
指示

B : 薬局提案型

薬局窓口で薬  
剤師が疑問視

C : 介護支援専門員提案型

介護支援専門員か  
ら薬局への相談

D : 多職種提案型

看護師、訪問介護員など  
多くの医療・介護職、  
そして家族からの相談

情報の共有＆問題点を相互認識

情報の共有＆問題点を相互認識

薬剤師訪問  
訪問の意義・目的説明

薬剤師が訪問して状況把握

⇒薬剤師介入の必要性があると判断⇒患者に訪問の意義・目的説明

多職種の意見  
を繋ぐ！

医師・歯科医師に情報提供

⇒訪問の必要性報告⇒訪問指示を出してもらう

患者同意を得て訪問薬剤管理指導（居宅療養管理指導）開始



# 介護支援専門員 & 薬剤師 & 行政 研修会

～利用者の望む暮らしに向け薬剤師の業務を知り、連携を考える～

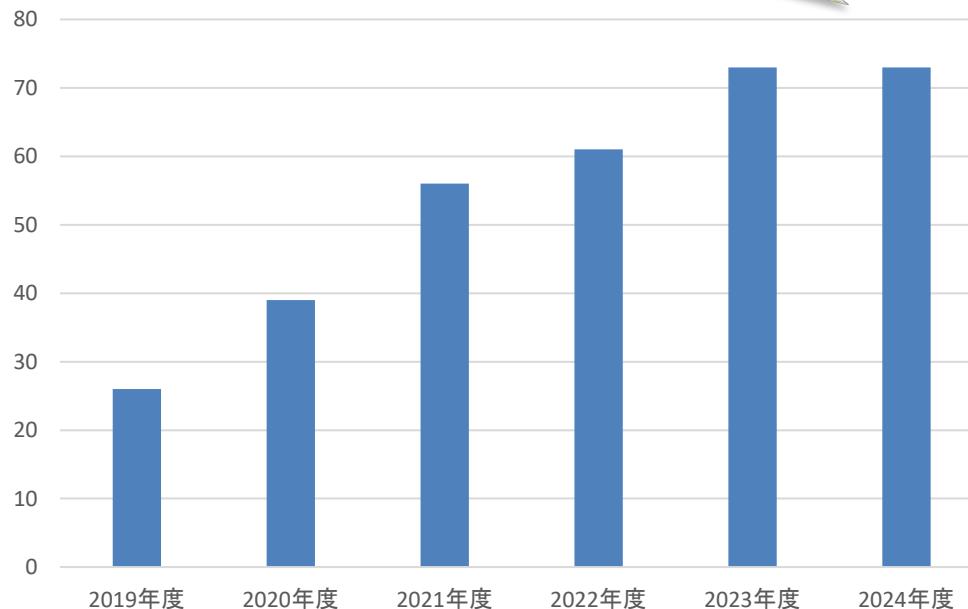


薬剤師が地域と連携  
するために効果的

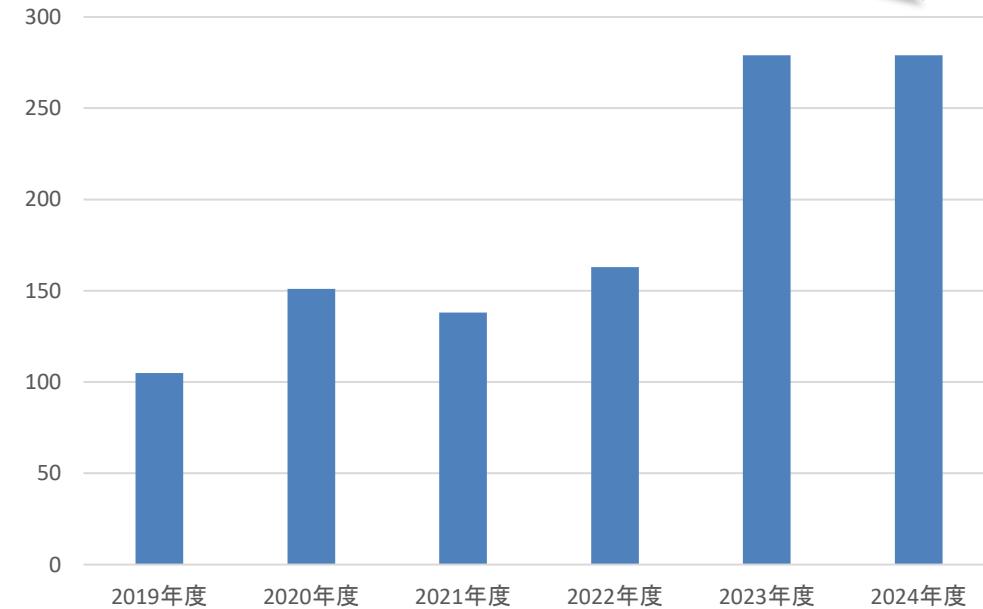


# 当地域における訪問薬剤管理指導の導入状況

当院→保険薬局  
訪問薬剤指導依頼書送付件数



保険薬局→当院  
訪問薬剤指導報告書受領件数



2017年(年間2件)⇒2024年(年間70件以上)  
依頼書及び報告書件数は大幅に**増加**

# 当地域で使用している訪問薬剤管理指導報告書

## 訪問藥劑管理指導報告書

病院 報告日 年 月 日  
先生侍史 訪問日 年 月 日  
様の訪問薬剤管理事項について連絡申し上げます。

様の訪問薬剤管理事項について連絡申し上げます

現住所		保険薬局 名称・所在地	
生年月日			
性別			
電話番号			
介護度	申請		
生活環境		医療機関・自宅(独居)・自宅(夫婦二人)・自宅(複数世代と同居)・施設・その他()	
各種症状の確認	認知機能	最近、物忘れが多くなったり、同じことを聞いたり話したりすることがあった	はい · いいえ
	身体機能	最近、転倒したり、家で動けなくなっていることがあった	はい · いいえ
	摂食嚥下機能	最近、食事量・体重の減少や、口の渴き・飲み込みにくさ等があった	はい · いいえ
	排尿	最近、排尿に違和感を感じることがあった	はい · いいえ
	既往歴/現疾患		
他科受診	有り		
併用薬品	有り		

サブリメント・嗜好	有り	排便	最近、排便に困難を感じることがあった	はい	いいえ	
生活環境						
認知機能	最近、物忘れが多くなったり、向こむことを聞いたり話したりすることができない		はい	いいえ		
身体機能	最近、転倒したり、家で動けなくなっていることがあった					
摂食嚥下機能	最近、食事量・体重の減少や、口の渇き・飲み込みにくさ等があった					
排尿	最近、排尿に違和感を感じることがあった					
排便	最近、排便に困難を感じたことがある					
報告事項	処方変更	あり	なし	処方提案	あり	なし
便秘症状が継続しているため、水分摂取を促し、薬剤の調整方法について指導。 口渴ありとのことで、次回以降抗コリン作用薬の減薬含め検討予定。						
ここ1ヶ月で薬の飲み忘れがあった	はい	いいえ	聴取できず			
薬を飲むとき不注意で間違ったことがある	はい	いいえ	聴取できず			
自己判断で薬を調節した	はい	いいえ	聴取できず			
80%以上の服薬順守	問題あり	問題なし	聴取できず			
服薬アドヒアレンス評価	問題なし	問題あり				

## 高齢者の生活機能を確認し、薬学的に介入

# 高齢者の生活機能を確認し、薬学的に介入

報告事項	処方変更	あり・なし	処方提案	あり・なし

# 在宅医療における薬学的介入と関連する因子の調査

調査期間：2020年4月1日～2024年9月30日

調査対象：調査期間内に当院に提出された訪問薬剤管理指導の報告書(n:878)

調査項目：年齢、性別、薬剤管理者、調剤形態、生活環境、服薬支援グッズの使用、要介護度、  
キーパーソンの有無、服薬アドヒアラנס評価、CGA

調査方法：薬剤師の介入の有無により2群に分類、单变量解析にてP<0.05の因子を説明変数  
としてロジスティック回帰分析

説明変数	オッズ比	オッズ比の95%信頼区間		P値
		下限値	上限値	
年齢	1.010	0.990	1.030	0.279
性別	0.999	0.564	1.770	0.998
薬剤管理者	0.952	0.572	1.590	0.850
調剤形態	1.570	0.807	3.040	0.185
生活環境	1.030	0.570	1.870	0.918
服薬支援グッズの使用の有無	1.160	0.690	1.930	0.582
キーパーソンの有無	1.520	0.814	2.830	0.189
服薬アドヒアラنس評価	16.000	9.320	27.400	<0.001
高齢者総合機能評価(CGA)	2.540	1.420	4.530	0.00161

CGAを活用した  
薬学的介入は有用

# 令和6年度～薬薬連携による訪問薬剤管理指導の風景



残薬多数!  
この患者一人で  
約10万円



病院薬剤師は入院中からMSWやケアマネなど在宅医療の  
中心となる多職種と情報共有を図りやすい



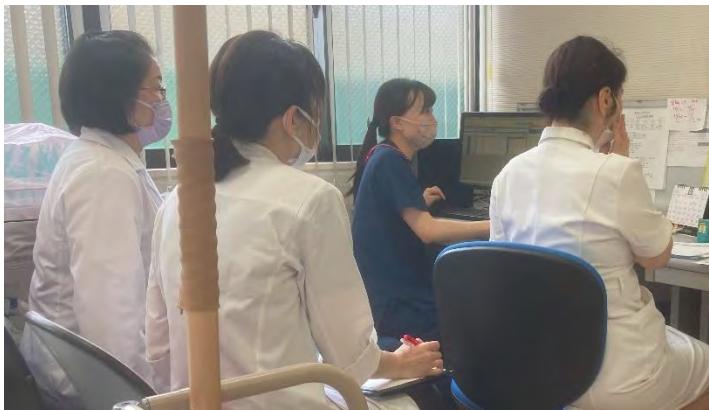
退院直後の短期的介入⇒病院薬剤師  
長期的介入⇒薬局薬剤師



# (併設) 老健施設における多職種での処方適正化ラウンド

老健への薬剤師配置は1人/300名  
⇒当施設では0.25人/日

## 老健施設でのラウンド風景



対象

全入所患者

紙カルテにて事前情報取得  
が難しい・・・

参加メンバー

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護士、  
管理栄養士、セラピスト etc

スクリーニング

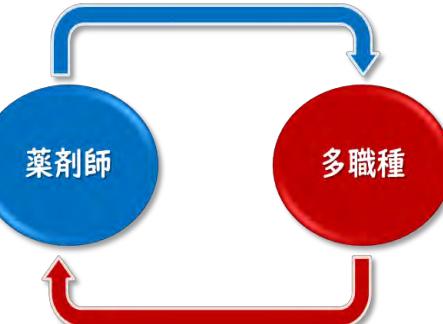
持参常用内服薬剤数、PIMs、1日薬価

多職種情報共有シート			
患者ID	唐者名		
相談元		*薬物の有害事象に係わる可能性のある症状や、 薬物の投与または中止により改善する可能性のある 症状についてご自由にご記入下さい。 次回定期処方払い出し時の検討事項とさせて頂きます。	
<input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 介護士 <input type="checkbox"/> リビング <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 栄養士			
<p>①下痢      ②便秘      ③食欲不振      ④胃部不快感 ⑤めまい      ⑥ふらつき      ⑦転倒・転落      ⑧排尿障害 ⑨傾眠      ⑩不眠      ⑪せん妄      ⑫嚥下障害 ⑬かゆみ      ⑭疼痛      ⑮低血圧      ⑯高血圧 ⑮嘔気・嘔吐      ⑯徐脈      ⑰頻脈 ⑰その他( )</p>			
相談内容 (番号記入)		詳細	
相談内容 (番号記入)		詳細	
相談内容 (番号記入)		詳細	
相談内容 (番号記入)		詳細	

多職種情報共有シート

嚥下障害、食欲低下、消化器症状、ふらつき、転倒、  
傾眠/せん妄、不眠 etc

薬剤適正使用に  
必要な多職種の  
各種評価を  
情報共有



# (併設) 老健施設における処方適正化ラウンドの効果

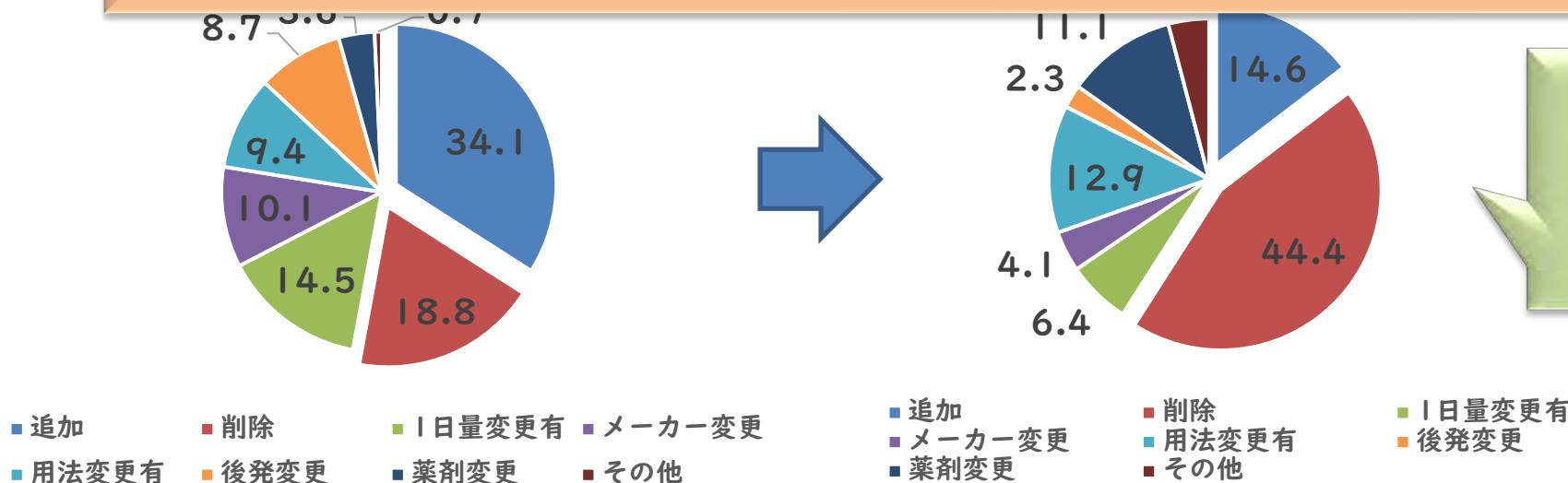
調査期間:2021年10月～2022年9月(運用前)  
2022年10月～2023年3月(運用後)

年齢(歳)  
性別(男/女)  
処方変更患者数(人/月)  
処方変更薬剤数(剤/月)

	運用前	運用後
年齢(歳)	87.6	87.1
性別(男/女)	19/45	19/36
処方変更患者数(人/月)	5.3	9.2
処方変更薬剤数(剤/月)	10.3	27

処方変更薬剤数は  
約3倍  
薬剤削減効果は  
15万/月

施設でも病院薬剤師が関わることで  
医師の業務負担を軽減&経済的効果↑

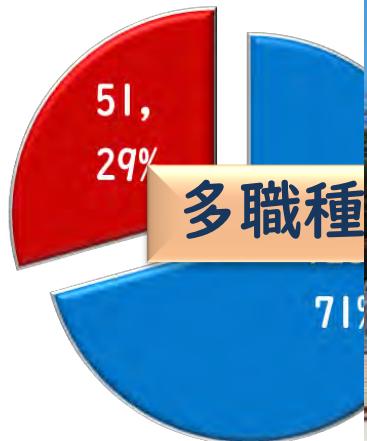


追加薬剤は ↓↓  
削除薬剤は ↑↑

# 老健施設における多職種情報共有シートの効果

2022年10月以降の退所患者  
(n=105)

情報共有による効果



の活用有無

状況共有なし  
事が改善

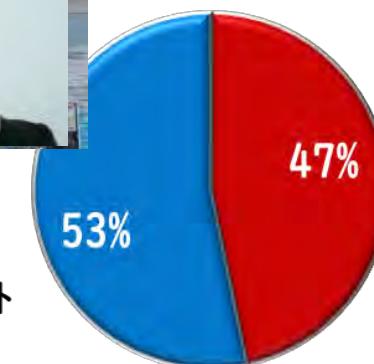
情報共有なし



退所理由

■緊急入院

■緊急入院以外



# 多職種&地域とタスク・シフト/シェアで取り組んだ業務



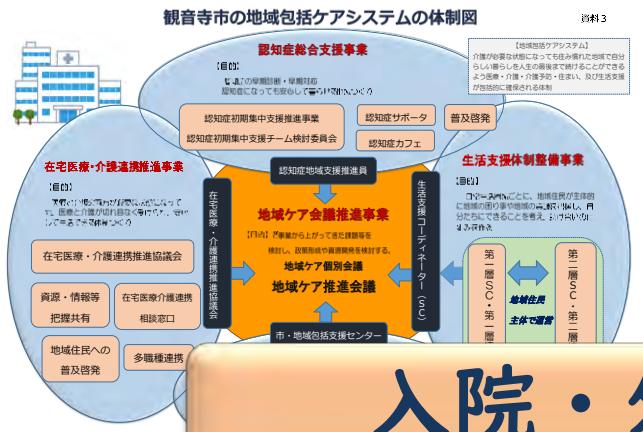
## ポリファーマシー対策



## 情報共有対策

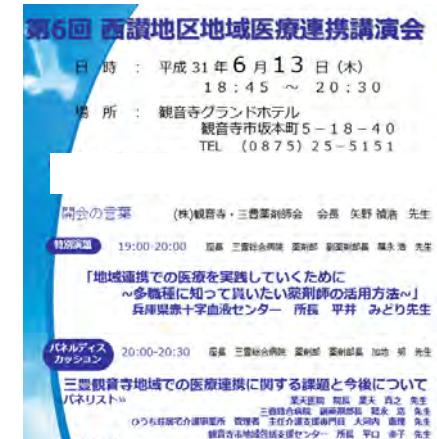


## 地域での介護予防対策



## 在宅介入＆老健対策

入院・外来・地域の薬学的連携の質と量を高める



# 地域で薬剤師が介護予防対策を行うにはどうすれば？



どこから手を付けて良いかわからない・・・  
まずは高齢者のフレイル対策を実施してみよう！

病院&薬局薬剤師&地域多職種&行政で検討

薬局の待ち時間等  
に活用可能

# 当地域における低栄養・フレイル対策

## 低栄養・フレイル・サルコペニア評価表

作成:三豊総合病院 薬剤部(2019.07)

### 栄養障害・フレイル予防 じぶんのからだ チェック

薬局で簡単にじぶんの健康をチェックしてみましょう!  
以下の質問にお答えください(□)

①ここ3か月で食事量は減りましたか?  
□とても減った □まあまあ減った □変わらない

②ここ3~6か月で体重は減りましたか?  
□3kg以上減った □わからない □1~3kg減った □変わらない

③自分で歩けますか?  
□車いすが必要 □何とか歩けるが外出は無理 □外出も問題なし

④以前に比べて歩く速度が遅くなりましたか?  
□遅くなった □変わらない

⑤定期的な運動やウォーキングをしていますか?  
□定期的にしている □していない

⑥ここ3か月で精神的ストレスや急な病気がありましたか?  
□はい □いいえ

⑦神経の病気やこころの問題で辛いことはありますか?  
□とても辛い □色々と辛いこともある □特に問題なし

⑧ここ2週間、わけもなく疲れた感じはありますか?  
□疲れた感じがある □疲れていない

⑨5分前のことが思い出せますか?  
□思い出せる □思い出せない

薬局で身体測定してみましょう(□)

⑩身長: \_\_\_\_\_ cm ⑪体重: \_\_\_\_\_ kg  
⑫握力:(右) \_\_\_\_\_ kg (左) \_\_\_\_\_ kg  
⑬ふくらはぎの周囲の長さ: \_\_\_\_\_ cm  
⑭指輪っかテスト:□回めない □ちょうど回める □隙間あり

全ての記入が終わりましたら、薬剤師にお渡し下さい。  
薬学的観点からの栄養状態や身体状態の評価を受けてみましょう。  
次回薬局を訪れるまでに1項目でも改善してみましょう!!

なお、医療機関と連携し、薬学的介入を実施した場合には服薬指導等提供料をご負担頂きます。

栄養障害・フレイル・サルコペニアスクリーニング評価表兼報告書  
2020年2月

氏名: 年齢: 族 体重: kg 身長: cm

簡易栄養状態評価表(MNA-SF)

下の各欄に該当した数値を記入し、それらを加算して結果を算出します。

過去2ヶ月間で食欲不振、消化器系の問題、そして、嚥下障害などでは食事量が減少しましたか?

① 0 = 春しい食事量の減少  
1 = 中等度の食事量の減少  
2 = 食事量の減少なし  
□

過去2ヶ月間で体重の減少がありましたか?

② 0 = 2kg以上の減少  
1 = わからない  
2 = 1~2kgの減少  
3 = 体重減少なし  
□

自力で歩けますか?

③ 0 = 具合よりまたは歩行子を常に使用  
1 = ベッドや要椅子を離れるが、歩いて外出はできない  
2 = 自由に歩いて外出できる  
□

過去2ヶ月間でストレスや急性疾患を経験しましたか?

④ 0 = はい  
2 = いいえ  
□

神経・精神的問題の有無

⑤ 0 = 痴呆症知能またはうつ状態  
1 = 中等度の認知症  
2 = 最高度の認知症  
□

BMI(Kg/m<sup>2</sup>): 身長(cm) ÷ 体重(kg)  
⑥ 0 = BMIが19未満  
1 = BMIが19以上、21未満  
2 = BMIが21以上、23未満  
3 = BMIが23以上  
□

BMIが測定できない方一回の扇数を使用  
BMIが測定できる方一回の扇数を使用

⑦ ふくらはぎの周囲長(cm)  
0 = 21cm未満  
2 = 21cm以上  
□

結果(範囲:14点)  
12~14 ポイント: 安楽状態良好  
8~11 ポイント: 低栄養のおそれあり  
0~7 ポイント: 低栄養

ページ

フレイル評価(簡易フレイルindex)

下の項目にいくつ該当したかで判断します。

⑧ (体重減少): 6か月で、2~3kg以上の体重減少  
⑨ (歩行速度): 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと感じる  
⑩ (身体活動): ウォーキング等の運動を週に1回以上していない  
⑪ (筋肉量): (ここ2週間)わけもなく筋張ったような感じがする  
⑫ (認知機能): 5分前のことが思い出せない  
□  0項目: 健常  
□  1~2項目: フレイル  
□  3項目以上: フレイル

サルコペニア簡易チェック

\*85歳以上が適応だが、それ以外の使用も可  
⑬ 握力: 男性<28kg、女性<18kg  
⑭ 指輪っか: 腕間有or下腿周囲長: 男性<34cm、女性<33cm  
□  0項目: 健常  
□  1~2項目: サルコペニア疑い

総合評価

低栄養・フレイル・ サルコペニアの無い 指揮用配布資料	あり・なし	定期介入の必要性	あり・なし
羊羹・運動・その他	なし	薬剤との関連	あり・なし
(患者への指導内容)		(次回施設予定の段階)	

薬局名: \_\_\_\_\_ 薬剤師名: \_\_\_\_\_ FAX番号: \_\_\_\_\_

MNA-SF®を用いて栄養評価を実施

簡易フレイルindexを用いたこの部分でフレイル評価を実施

\*問診のみで評価可能な方法を選択

AWGS2019を用いて  
サルコペニア評価

\*握力と下腿周囲長(指輪っか)のみで評価可能な方法を選択

この部分で総合評価

# 栄養＆運動提案ツール（一部抜粋）

## 食事のポイント

1日3食きちんと食べましょう  
必要な栄養を確保するために  
3食食べましょう



たんぱく質を  
しっかりとりましょう  
1日このくらいの量を目安に  
摂りましょう



バランスの良い食事を  
とりましょう  
主食・主菜・副菜  
そろえて食べましょう



高エネルギーの食事を  
取り入れましょう  
油を上手に使いましょう



食事の時間帯にこだわらず  
食べられるときに食べましょう



食べやすい・やわらかいものを選びましょう

・肉はミンチや薄切りに

・おろしたり、  
一口大に切る



・やわらかい調理を



三豊総合病院 栄養管理科

## 活動量を増やしましょう！

・有酸素運動が効果的です



などなど…

運動の強さ：ややきつい程度、会話ができる程度  
運動の時間：1回30分以上  
運動の頻度：週3回以上

目標に！



膝も痛いし  
運動は難しい…



有酸素運動が難しい方も  
5分の散歩、庭いじり、近所の商店へ買い物などなど…  
まずは家の外へ出る(外出する)ことから始めましょう！

## 筋肉量を増やす運動(その①)



①スクワット10回



1回3周！



③つま先上げ、踵上げ  
交互に20回



②膝伸ばし  
交互に20回

※少なくとも週3回行いましょう  
(週2回以下では効果がでません！)

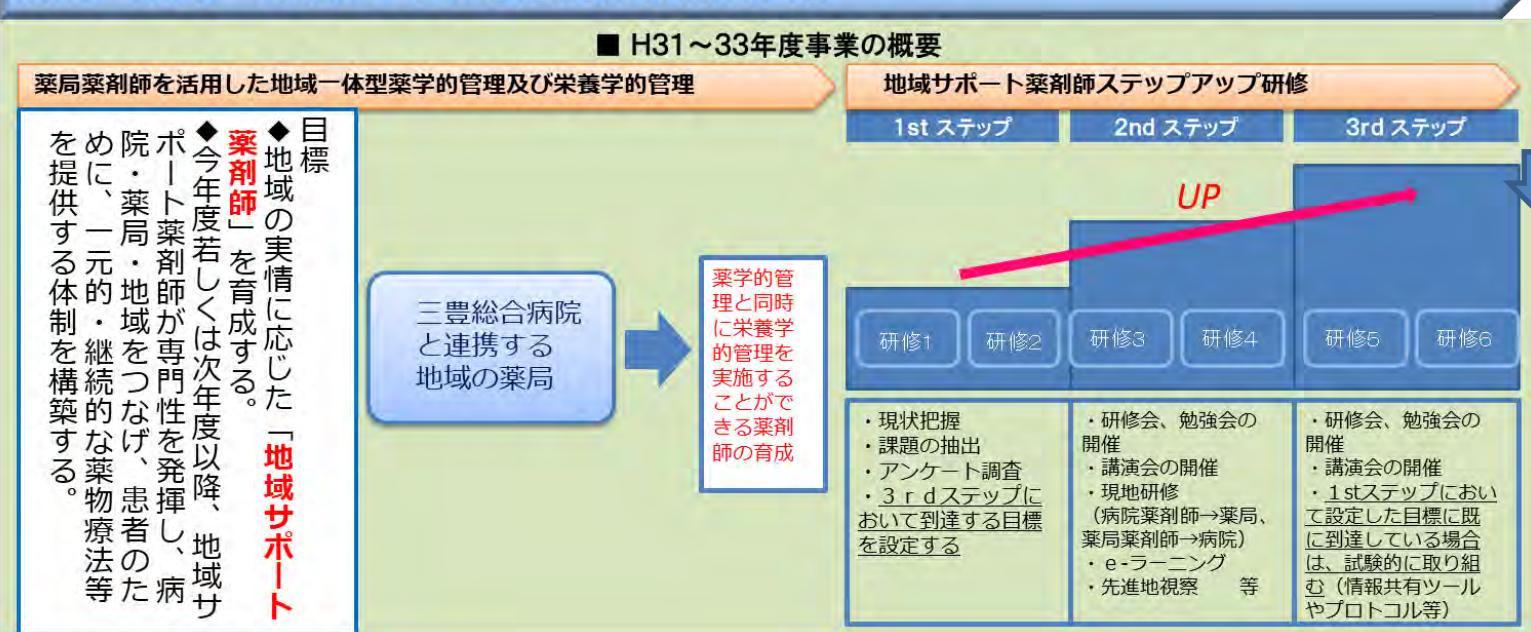
※腰や膝に痛みがある場合は中止してください

高齢者で大切なのはたんぱく質＆定期的な外出習慣！

# 地域で低栄養＆フレイル対策が可能な薬剤師を育成



## 病院・薬局・地域がつながる連携体制構築事業



栄養学的な基礎知識やツールの活用方法などの研修会を定期開催



J-STAGEから無料ダウンロード

## 地域高齢者のフレイル・低栄養・サルコペニアに対する 早期発見のための一体型チェック表の作成と早期支援が 可能な薬局薬剤師の育成

篠永 浩<sup>1,3</sup>, 近藤宏樹<sup>1,3</sup>, 遠藤 出<sup>2,3</sup>, 矢野楨浩<sup>4</sup>, 合田和史<sup>4</sup>, 宇川 亮<sup>4</sup>,  
浦上勇也<sup>4</sup>, 久間一徳<sup>5</sup>, 和泉和子<sup>6</sup>, 熊木良太<sup>7</sup>, 加地 祐<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 三豊総合病院薬剤部、<sup>2</sup> 三豊総合病院外科、<sup>3</sup> 三豊総合病院 NST

<sup>4</sup> 観音寺・三豊薬剤師会、<sup>5</sup> 香川県薬剤師会

<sup>6</sup> 観音寺市地域包括支援センター、<sup>7</sup> 昭和大学大学院薬学研究科社会薬学分野

## **Creation of an Integrated Checklist for the Early Detection of Frailty, Malnutrition, and Sarcopenia in Community-Dwelling Older People, in Conjunction with the Training of Pharmacy Pharmacists to Utilize This Checklist**

Hiroshi Shinonaga<sup>1,3</sup>, Hiroki Kondo<sup>1,3</sup>, Izuru Endo<sup>2,3</sup>, Sadahiro Yano<sup>4</sup>, Kazushi Goda<sup>4</sup>, Ryo Ugawa<sup>4</sup>, Yuya Uragami<sup>4</sup>, Kazunori Kuma<sup>5</sup>, Kazuko Izumi<sup>6</sup>, Ryota Kumaki<sup>7</sup> and Tsutomu Kaji<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Pharmacy, Mitovo General Hospital, <sup>2</sup>Department of Surgery, Mitovo General Hospital.

<sup>3</sup>Department of Nutrition Support Team, Mitoyo General Hospital.

<sup>4</sup>Kanonii Mitovo Pharmaceutical Association.

phaceutical Association, Community Comprehensive Support Center

Association, Community Comprehensive Sup

Department of Social Pharmacy, Showa University Graduate School of Pharmacy

Received, July 22, 2024; Accepted, April 10, 2025

## Abstract

**Objective:** We developed an integrated checklist for frailty, malnutrition, and sarcopenia in the elderly in our community, and aimed to train pharmacy pharmacists how to detect and support early detection using the checklist.

Methods: A checklist was developed based on the Simple Frail Index, MNA®-SF, AWGS2019, and the finger ring test. Pharmacy pharmacists were trained to conduct surveys on community events.

**Results:** The survey using the integrated checklist showed that 8.9% of all participants were frail, 55.9% were pre-frail, 27.9% were at risk of malnutrition, 5.0–17.9% had suspected sarcopenia, and 43.0–48.6% had confirmed sarcopenia, which was close to the previously reported results and confirmed the validity of this initiative. Frailty is significantly associated with pre-frailty, age, and malnutrition.

Discussion: We believe that the use of this tool by pharmacists in pharmacies and community event booths will facilitate the efficient and effective health support for elderly individuals in the community.

**Key words:** screening, frail, malnutrition, sarcopenia, health support

# 「地域サポート薬剤師」認定制度

観音寺・三豊薬剤師会  
三豊総合病院

## 地域の健康をサポートする 「地域サポート薬剤師」 薬局一覧 (令和4年度版)

よく転ぶようになった  
何をするも面倒だ…  
家に閉じこもりがち…  
元気がない…  
食欲がない…

その症状 「フレイル※」 かもしれません！

今は健康な方でも  
・いつまでも健康で長生きしたい  
・寝たきりになりたくない  
・病気でなるべく家族に迷惑をかけたくない

私たちにお任せ下さい！

### 認定者が在籍する 保険薬局一覧を掲載

フレイル薬局	××調剤薬局
サルコペニア薬局	○□調剤薬局
リハ薬剤薬局	□○調剤薬局
○○調剤薬局	△×調剤薬局
□□調剤薬局	×△調剤薬局
△△調剤薬局	

※「フレイル」とは、わかりやすく言えば「加齢により心身が老い衰えた状態」のことです。  
しかしフレイルは、早く介入して対策を行えば元の健常な状態に戻る可能性があります。高齢者のフレイルは、生活の質を落とすだけでなく、さまざまな合併症も引き起こす危険があります。

【地域サポート薬剤師】  
薬学的管理と栄養学的管理を同時に行える薬剤師であり、  
地域住民の健康サポートに寄与することが目的

### 認定要件

- ・ 指定研修会への参加
- ・ 症例報告
- ・ 到達度テスト

合格

### 「地域サポート薬剤師」認定者

2025年3月時点で 47名 (36薬局)  
→ 認定バッジ交付



在籍薬局内以外にも、地域住民がかかわる場所において活動することで、病院・薬局・地域をつなげ、一元的・継続的な健康サポート提供が可能



健康イベント



サロン



スーパーマーケット



スポーツジム

# 行政や各職能団体を巻き込むことも重要

## 第6回 西讃地区地域医療連携講演会

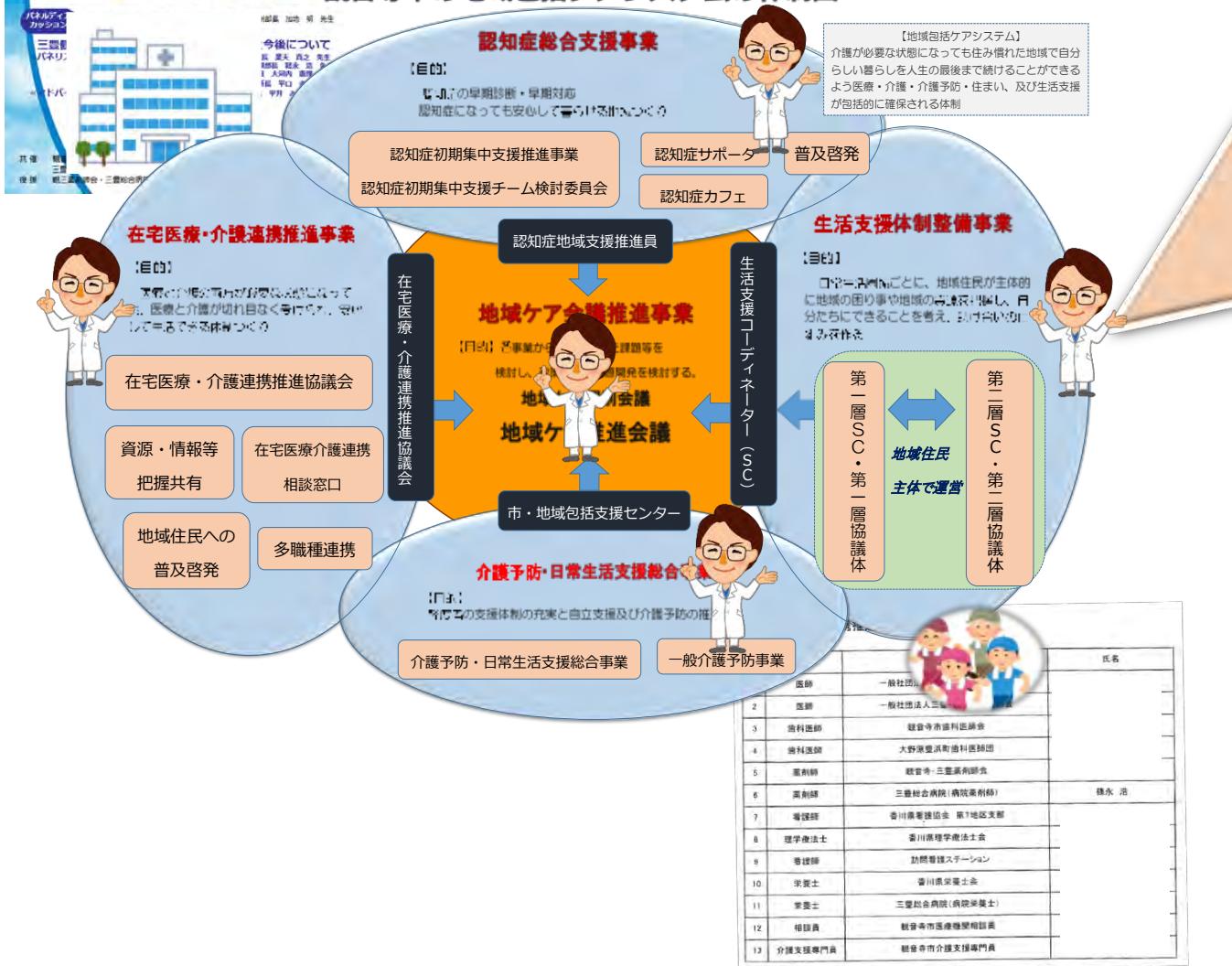
日 時：平成31年6月13日(木)  
18:45～20:30  
場 所：観音寺グランドホテル  
観音寺市坂本町5-18-40  
TEL (0875) 25-5151

開会の言葉 (株)岐智春・三豊薬剤師会 会長 矢野 順治 先生

発表演題 19:00-20:00 斎藤 三豊総合病院 薬剤部 薬剤師長 岩永 浩 先生

「地域連携での医療を実践していくために  
～各機関に知って戴いたい薬剤師の活用方法～」  
兵庫県赤十字血液センター 所長 平井 みどり先生

## 観音寺市の地域包括ケアシステムの体制図



【多職種連携協議会】  
病院薬剤師&薬局薬剤師が委員として参加  
し、薬剤師の有用性を知って貰う

【管理栄養士、セラピスト等と協働】  
他の職能団体と協力して薬剤師を教育

↓  
【薬剤師による地域活動】  
行政主体の健康サロンやイベントに  
薬剤師会から地域サポート薬剤師を派遣

# 地域の高齢者サロン（通いの場）での健康サポート活動



薬剤師&行政で  
地域サロンを行脚



# 県民レクリエーションでの健康サポート活動



薬学生の参加  
+  
学生教育



# 多職種と協働した健康サポート活動



## 第6回 ふれあい健康まつり

日時：令和7年1月5日（日）  
10時～15時

場所：ゆめタウン三豊 1階ゆめ広場

健診度測定（体組成測定、骨密度等）、残薬整理、お薬相談、栄養相談、こども薬局とイベント盛りだくさんです。来て見て体験！健康のヒントを見つけませんか？ご近所の皆さんとお誘いあわせの上お越しください。



共催 観音寺・三豊薬剤師会  
三豊総合病院薬剤部

# 地域イベントでの薬剤師による健康サポート活動

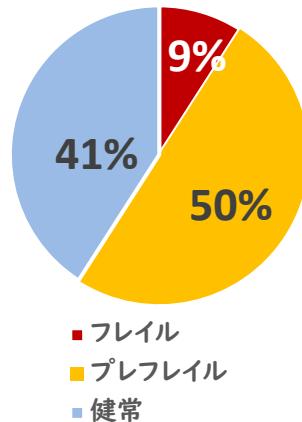


薬局薬剤師+病院薬剤師  
40名参加  
栄養/フレイル対応 250名



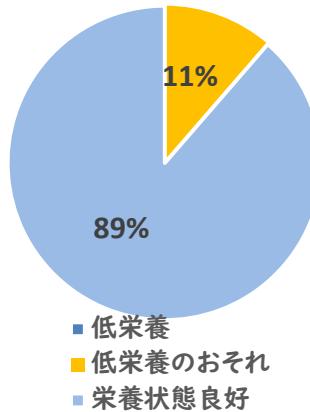
# 地域イベントでの活動状況

フレイル評価

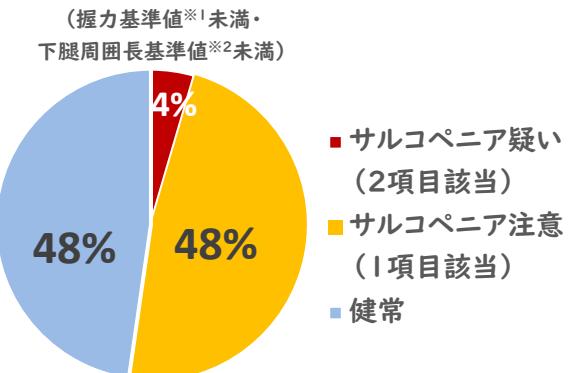


2024年度は月2回の  
ペースで活動中

栄養評価



サルコペニア評価



※1 握力基準値・・・男性：28kg, 女性：18kg

※2 下腿周囲長基準値・・・男性：34cm, 女性：33cm

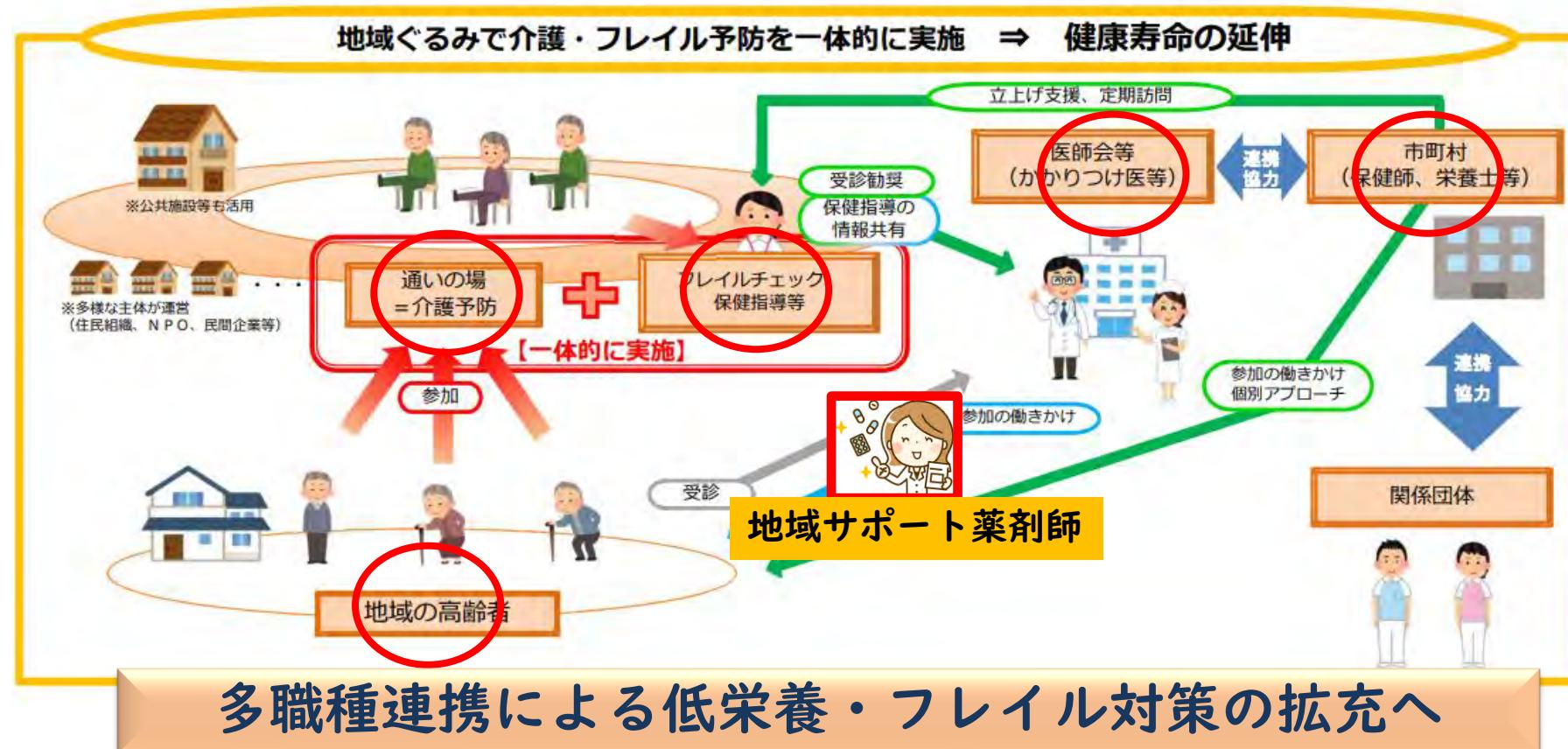
## 地域イベント活動状況

令和6年4月21日(日)	雲岡公民館(雲岡夢サロン)
令和6年6月11日(火)	堂之岡公民館(ひまわり会)
令和6年6月21日(金)	木之郷コミュニティセンター(軽体操同好会)
令和6年7月6日(土)	流岡民館(流岡元気サロン)
令和6年7月24日(水)	観音寺市社会福祉センター(市内いきいきサロン)
令和6年8月7日(水)	三谷公民館(三谷いきいきサロン)
令和6年9月20日(水)	帰来自治会館(ほのぼの会)
令和6年11月4日(月)	旧常盤幼稚園遊戯室(コミュニティカフェときわ)
令和6年11月9日(土)	常盤公民館まつり(たりたりときわ)
令和6年11月24日(日)	粟井公民館(楽らくあわい)
令和7年1月5日(日)	ふれあい健康まつり(ゆめタウン三豊)
令和7年1月11日(土)	わくわく福祉フェスタ(観音寺市社会福祉協議会)
令和7年1月22日(水)	観音寺市社会福祉センター(市内いきいきサロン)
令和7年1月20日(月)	三野町保険センター
令和7年1月24日(金)	山本町生涯学習センター
令和7年1月28日(火)	仁尾町文化会館多目的ホール
令和7年2月4日(火)	みとよ未来創造館
令和7年2月5日(水)	詫間マリンウェーブ
令和7年3月未定(土)	伊吹島公民館
令和7年2月17日(月)	財田町保険福祉センター
令和7年2月22日(土)	上出自治会館(廿日会はつかかい)
令和7年2月26日(水)	豊中町保険センター

半数以上の高齢者がフレイルおよびサルコペニアの予備軍  
薬剤師と行政が協働してフォローアップ

## 薬剤師を有効活用した地域連携による低栄養・フレイル対策

- 高齢者の通いの場を中心とした介護予防（フレイル対策（運動、口腔、栄養等）を含む）と生活習慣病等の疾病予防・重症化予防の一体的実施。
  - 通いの場の拡大、高齢者に対して生きがい・役割を付与するための運営支援、かかりつけの医療機関等との連携。



## 薬剤師のタスク・シフト／シェアの現状と展望



- ・ PBPM等により医師の負担軽減＆質向上
- ・ 薬剤師の人員不足＆負担軽減には非薬剤師＆効率化
- ・ 医師/薬剤師のみならず多職種＆地域でタスク・シフト/シェア



薬剤師によるタスク・シフト/シェアの可能性は**無限大**

